

放送人の会

No.78

2017.6.7

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel&fax03-3221-0019 Mail info@hosojin.com発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉
菅野高至、逸見京子、前川英樹（HP担当）、松尾羊一編集担当 伊藤雅浩（広報委員長・編集長）、鈴木典之、
事務局 須斎恵美子

新たな出発に際して

放送人の会 会長 今野 勉

1、大テレビドラマ博覧会

この5月12日、早稲田大学演劇博物館で、「大テレビドラマ博覧会」と銘打たれた企画展の内覧会があった。館長の岡室美奈子さんといささかの縁があり私も少しばかりお手伝いをしたこともあり内覧会に招かれた。

岡室館長の冒頭の挨拶を聞いて、私は思いがけない感慨に打たれた。テレビドラマ展の企画は、早大出身の大山勝美さんから持ちかけられたものだということの一つ、そして岡室さんが1958年生まれだったということが、私の感慨の所以であった。

私にとって大山さんはTBS演出部の先輩であり放送人の会会長の前任者である。大山さんが亡くなったのは2014年10月である。その前年の13年がテレビ放送開始60年にあたることを考えると、大山さんはその年に「テレビドラマ展」を考えついたのかもしれない。奇しくも岡室さんが演博の館長に就任したのが13年であるという。

テレビ開局50年という節目の年でさえテレビドラマの歴史を概観的に振り返ってみようという企画すら、わがテレビ界にはなかったのではないか。それを思うと、大山さんの発意と、考えるのに難しいその

企画を実現してくれた岡室さんの熱意に、敬意と感謝の念を伝えたい。

1958年生まれの岡室さんは根っからのテレビっ子で、その体験が今回の「大テレビドラマ博覧会」の基になっている、と岡室さんは語った。

「かつて私の心に刻まれたドラマ」の歴史、すなわち「極私的ドラマ史」である。それでいい、その方がいい、と私も思う。テレビはそうやって人々の中に生きていく。岡室さんは、テレビの最も良き視聴者なのだ。

2、1958年を思う

岡室さんが生まれた1958年という年にも私は大きな感慨を覚えた。

その年の秋、私はTBSの就職試験を受けた。ちょうどその時期、TBSテレビ（当時はラジオ東京テレビ）から、ドラマ「私は貝になりたい」と「マンモスタワー」が放送された。「庶民のB級戦犯を扱った」「私は貝になりたい」は、それまで「電気紙芝居」とヤユされていたテレビドラマ観を一変させた画期的な番組であった。「マンモスタワー」は、当時全盛を誇っていた映画と新興メディアであったテレビの、大衆獲得をめぐる戦いを予言したドラマだった。

そして、その年の9月、テレビ界では、映画との対決を意識した二人のテレビマンの宣言が発表されていた。

一人は、NHK（東京）でドキュメンタリーを作っていたディレクター吉田直哉、もう一人はNHK（大阪）でドラマを作っていたディレクター和田勉。

吉田は「記録映画への訣別状」と題して「テレビ・ドキュメンタリーという分野は、さしあたり、スクリーンの記録映画と全く無縁のものと考えてよい」と宣言。片や和田は「テレビドラマ、まず一切の遺産からの完全な自由、そこからです」と宣言していた。

私に言わせれば「1958年こそが、テレビ元年」であった。その58年に生まれた岡室館長が、「大テレビドラマ博」を実現したことに私が感慨を持つのは、当然である。

内覧会から1週間後の5月20日、放送人の会の総会が開かれ、新任の理事6名を含む34名の理事が決まり、不肖私が会長を続投することになった。

総会後の放送人グランプリ贈賞式で、グランプリを受賞したのは、ドラマの脚本家・池端俊策さんだった。脚本家が個人でグランプリを受賞したのは初めてである。

私が勝手に名づけた「テレビ元年」から59年。問われているのは、こうした歴史を背負いつつ、私たち放送人がどのような未来に向けて歩き続けるのか、ということである。その思いを皆さんと共有したい。

（大テレビドラマ博覧会 は8月6日まで）

放送人グランプリ2017 贈賞式



上段 原井聡明氏 五十嵐文郎氏 内山聖子氏 堀川とんこう氏 大橋浩介氏 松葉直彦氏 松尾明美氏 梅岡宏氏 西村与志木氏
石橋冠氏
中段 加藤就一氏 藤本一彦氏 石井香織氏 旗手啓介氏 土井裕泰氏
下段 三村忠史氏 今野 勉氏 池端俊策氏 延江 浩氏 吉田照幸氏

放送人グランプリ2017

受賞者及び受賞番組

◆グランプリ◆

池端 俊策（いけはた しゅんさく）

【表彰理由】

池端俊策氏の脚本には「力（ちから）」がある。それは魂を貫くような愛に満ちた表現力であり、「実はそうだったのか」という人間に対する観察力であり、登場人物や事態を少し突き放してシニカルに見る批判力である。今年度の授賞理由となった「夏目漱石の妻」、「百合子さんの絵本／陸軍武官・小野寺夫婦の戦争」というドラマにはそうした3つの力が溢れている。

さらに奇しくもこの2作品は「妻」という立場を通じて夫や家族を描いたものであるが、その舞台となった「明治」という時代を、そして「昭和」という時代を見事に表現している。第16回を迎える「放送人グランプリ」として脚本家を個人で初めて表彰することも記しておきたい。

（略歴）

1946年生まれ、広島県出身。1970年明治大学を卒業後、映画監督、今村昌平の脚本助手となる。1983年「昭和四十六年 大久保清の犯罪」（TBS）、「仮の宿なるを」（読売テレビ）など話題作を次々に執筆。1984年、「私を深く埋めて」（TBS）、「羽田浦地図」

（NHK）、「危険な年ごろ」（読売テレビ）の3作品で向田邦子賞、芸術選奨新人賞を受賞。2001年「聖徳太子」（NHK）から始まる「大化の改新」「大仏開眼」など古代史3部作を執筆。

2004年「海峡を渡るバイオリン」（フジテレビ）、2008年「帽子」（NHK）などを執筆し、2009年、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章を受章。2014年、「足尾から来た女」（NHK）、2016年「百合子さんの絵本／陸軍武官・小野寺夫婦の戦争」（NHK）、「夏目漱石の妻」（NHK）、2017年、「破獄」（テレビ東京）など意欲的な作品が続く。

◆準グランプリ◆

NHKスペシャル「ある文民警察官の死」
カンボジアPKO23年目の告白

【表彰理由】

23年前（1993年）、カンボジアPKO（国連平和維持活動）に参加した警察官が銃殺され死亡していたことが、この番組で初めて明らかになった。すぐに、第二次大戦中フィリピンで戦死した詩人・竹中浩三の詩「骨の歌う」の一節が脳裡に蘇った。「…兵士の死ぬるや哀れ、遠い他国でひよんと死ぬるや…」。折しも自衛隊の南スーダン派遣が取沙汰されている中で、時宣を得た企画であった。安保政策が大転換した今、大いに検証すべき優れた問題提起ドキュメンタリーだった。

◆優秀賞◆

延江 浩（のぶえ ひろし） エフエム東京
エグゼクティブ・プランナー

【表彰理由】

2016年度に2本の秀作を企画、制作した。1本は、ボブ・ディランのノーベル文学賞授与に視点をあて、今の時代に「なぜディランなのか？」を探りつつ、トランプ時代を迎える中でディランの歌のメッセージを提示している。2本目は、井上陽水の歌詞の意味不明さを解読しつつ、ラジオならではの展開、構成の妙を示してくれた傑作である。プロデューサーとしてのセンス溢れる企画力と良質のラジオ番組を発表し続けるこれまでの活躍も含めて、その功績を称えたい。

【対象作品】

ボブ・ディラン ノーベル文学賞受賞記念
『The Times They Are a-Changin.』時代は変わる〜

ミュージックドキュメント 井上陽水×ロバートキャンベル『言の葉の海に漕ぎ出して』

◆優秀賞◆

NNNDドキュメント

「お笑い芸人vs原発事故 マツ&ケンの
原発取材200日」

【表彰理由】

お笑い芸人へおしどりの夫婦コンビが、東電本社の原発事故定例記者会見に最多出席し、場違いと冷笑される中猛勉強による鋭い質問を連

発して隠れた真実に光を当て続け『名物記者』として一目置かれる存在になった上に、その『草の根』活動ぶりが国際的にも注目される事になった。

番組は、記者会見場の緊迫する応酬の映像と、本業や講演会など夫婦コンビの闊達・多忙な日常風景とをスリリングに構成し、イキの良さどスピード感で魅せるへおしどりの舞台そのものの面白さで、視聴者の心を一気にワシ掴みにします

思いがけない驚きと感動に揺さぶられる「3.11」関連特番中随一の快作である。

◆特別賞◆

山田太一ドラマスペシャル「五年目のひとり」

【表彰理由】

東日本大震災で家族を失った『ひとり』の中男を通して、未だ癒えない心の傷、複雑な思いを抱えながら生きることの辛さを巧みに描いた。「もう五年じゃない、まだ五年なんだ」、主人公の叫びが響く。「時は立ちどまらない」から二年。再び結集し、「震災を忘れるな」と警鐘を鳴らしてくれたことに対して。

◆企画賞◆

「サラメシ」

【表彰理由】

『誰にでも昼が来る』『ランチをのぞけば人生が見える』をキャッチフレーズに6年前に始ま

ったドキュメンタリー・バラエティー「サラメシ」。都会のサラリーマンばかりでなく、様々な職種の現場に入り込み、仕事の中心や家族と職場の間模様、更には地域や風土の匂いまで、昼食の中に織り込んでいる。名の知れた著名人や芸能人の昼飯も時に登場、番組構成に絶えず工夫を凝らし、毎回、へ〜という話題で飽きさせない。これが夕飯でなく昼飯だから良いのだろう。取材しやすく過剰演出を防ぎ、他の食べ物番組の追従を許さない。中井貴一のハイテンションのナレーションも効果的だ。番組企画の勝利といえよう。

第3回大山勝美賞

吉田 照幸（よしだ てるゆき）

NHKエンタープライズ 番組開発部 エグゼクティブ プロデューサー

【推薦理由】

音楽・バラエティー畑で育った吉田照幸氏は新感覚のコント番組「サラリーマンNEO」でヒットを飛ばし、映画版の監督も務めた。演出陣に加わり、連続テレビ小説にバラエティー的な手法を盛り込んだヒット作の「あまちゃん」以来ドラマの企画・演出にも取り組んでいる。新たなコント番組「となりのシムラ」シリーズを作りながら、「洞窟おじさん」「富士ファミリィ」「獄門島」などの異色作を手がける縦横無尽の活躍は、目を見張る。

（略歴）

1969年12月生まれ。1993年NHKに入局。2002年から「サラリーマンNEO」の番組開発を立案、2012年に映画化され監督も務める。2013年上期の連続テレビ小説「あまちゃん」の演出を手掛けたのち、NHKエンタープライズ番組開発部エグゼクティブ プロデューサー。

土井 裕泰（どい のぶひろ）

TBSテレビ ディレクター

【推薦理由】

ここ数年、土井裕泰氏は目覚ましい活躍をしてきました。「コウノドリ」「重版出来！」「逃げるは恥だが役に立つ」「カルテット」などの話題作をつらね、才能をいかんなく発揮しました。その演出は、柔軟で自在、ときに軽快、ときに重厚で、更に、俳優の適切な演技を引き出す術は見事です。この卓越した実力に対して、この賞を贈ります。

（略歴）

1964年4月生まれ。TBSに入社後「愛してると言ってくれ」（1995年）、「ビューティフルライフ」（2000年）、「GOOD LUCK K!」（2003年）「空飛ぶ広報室」（2013年）「眠りの森」（2014年）など演出作品多数。「映画 ビリギャル」なども手掛けている。

贈賞式は5月20日（土）、千代田区紀尾井町千代田放送会館2階ホールで行われた。司会進行は会員の藤田知久氏、各賞のプレゼンターは今野勉会長と各選考委員、大山勝美賞については渡辺美佐子さん（故・大山勝美氏夫人）にお願ひした。以下は式の進行順の記録である。

大山勝美賞選考経過

選考委員長 石橋 冠



大山勝美賞は今回で3回目になります。大山さんは放送人の会を設立以来引つ張つてきてくださった先輩であり、ドラマの巨匠でわれわれが大いに学んできた先輩です。大山さんが

亡くなって2年半になります。生前、大山さんはドラマについていろんなことを語りましたが、特に若い人たちをどう励ますかについて情熱をもっておられました。亡くなられる際、放送人の会へ多額の寄付金を贈られましたので、わたしたちは協議して、大山さんの名前を残し、意思を継いでゆく形でこの寄付金を使うことにしました。その思いで設立されたのが大山勝美賞です。

賞について規約があります。一つ目は、「ドラマに限る」。大山さんは終生ドラマの人だったので、ドラマのクリエイターを個人で表彰します。二つ目は「若い人を表彰する」。若いといっても60歳以下ですが、これから益々活躍して欲しい

方に賞を贈ります。三つ目は「長い期間の活動状況を評価する」。放送人グランプリはここの年の作品から選んで表彰していますが、大山賞は個々の作品でなく、長い期間の仕事の仕方を総合して判断して選びます。この3点をクリアしたお二人に賞を贈ります。

NHKの吉田照幸さん、そしてTBSの土井裕泰（のぶひろ）さんです。

選考経過というのですが、経過というほどのことはなくて、非常に長い雑談の結果二人が選ばれました。これがいい選び方かなと思います。

審査員を紹介します。

堀川とんこうさん、鶴橋康夫さん、西村与志木さん、八木康夫さん、五十嵐文雄さん、鈴木嘉一さん、そしてつまり私石橋冠の7人で選考を行いました。

表彰理由については表彰状をご覧ください。（3ページ参照）

受賞者の紹介

選考委員 鈴木嘉一

石橋委員長は「長い



雑談」と言いましたが、今年は昨年に比べると短い雑談で、あっという間に終わりました。つまり、それだけお二人の仕事が傑出していました。

表彰の理由は表彰状に書いたことに尽きますが、個人的には「サラリーマン・NEO」「となりのシムラ」が大好きです。この賞はドラマ制作者へのもので、吉田さん

はバラエティ出身ですが、こうした縦横無尽な異能がドラマを作ることでドラマの世界はもっと面白く、広がって行くと思います。これからの活躍に期待しています。

受賞者の挨拶

吉田照幸



ありがとうございます。素晴らしいです。素晴らしい先輩がたに囲まれて、公開処刑にあつていく気分です。賞状をみて、「ああこんな番組があつたな」と振り返っていました。

あんなに嬉しい文言はありません。4年前、NHKのPの井上からメールがきて呼び出され、「朝ドラやらない？」と言われ、迷つて「やります」と言つたときから人生が変わりました。その前に「サラリーマンNEO」をやつていましたが、夢中になってやつて、ドラマの面白さに気づき、今こうしてドラマをやっています。

大山さんについて思い出すのは「不揃いの林檎たち」で、中井貴一さんが高橋ひとみさんにふられるシーンが子供心に強い印象で残つていて、あんな苦みのある感情を描きたいと思つていました。「サラリーマンNEO」で実はやつていたのですが、それをドラマでやれたらと「洞窟おじさん」や「富士ファミリー」をやり、ちよつと肩ひじ張つて「獄門島」もやつてみました。いろいろ挑戦しています。最期に宣伝ですが、年末に映画「探偵はBARにいる3」が公開です。こちらもしっかりお願いします。

受賞者の紹介

選考委員 堀川とんこう



土井ちゃん、しばらく。土井ちゃんと私は歳が28違います。私が定年退職したとき30歳ちよつと、一緒に仕事をしたことはほとんどありません。最初は、TBSのド

ラマの伝統をきちんと継承している若手だ、大山さんのようなオーソドックスなドラマツルギを身につけた人だ、という印象でした。実はわたくしは「コウノドリ」が好きです。あれをやっているというので、成長した、という失礼ですが、自在な演出をするようになったと思ひました。その後「重版出来」があり、「逃げ・恥」があり、「カルテット」があり、わたくしは完全に参りました。オーソドックスでありながら実に柔軟です。映像の切り取り方も型がやわらかい。TBSにもこんな人があらわれているのだなあ、と強く感じました。映画もやつて活躍の場を広げておられます。これからもドラマ界のために頑張ってください。

受賞者の挨拶

土井裕泰

本日はありがとうございます。今年の春で放送局に入つて30年目になります。節目の年に会社の大先輩である大山さんの賞をいただき、受賞の知らせを石橋冠さんから直接いただき、光栄で嬉しく思います。今、堀川さんは一緒に仕事をすることがないとおっしゃいましたが、「丘の



上の向日葵」でADをやっております。

(笑)

気が付いたらもう30年ですが、まったくそんな気がしませんでした。一昨年から今年にかけて4つの作品が授賞理由に挙げて

ありますが、うち3つはマンガ原作で、オリジナルドラマを作るのは難しい状況です。そんな状況のなかで柔軟にやっていかなくてはと思っています。連ドラはやはり日常の社会に向き合っている人々を描くのが本筋で、日常の思いの先にある恋愛、仕事への思い、そしてそこにサスペンスが生まれたり、というものだと思います。作品のタイプはいろいろですが、それを守ってきました。30年やってきて、そろそろ体もきついなあと思っているのですが、石橋さんがこの賞は今後に期待するものだといわれましたので、これまでのものを壊して、一から積み上げるつもりでこれからの作品に向かうつもりです。

プレゼンター 渡辺美佐子さんの挨拶



大山は若い人たちが育つてゆくのを何よりの

楽しみにしておりましたので、今日授賞なさったNHKの方、TBSの後輩の方のことをとても喜んでおられます。「洞窟おじさん」を拝見しましたが、リリー・フランキーさんが汚いのびつくりしました。大山賞ではありませんが、池端俊作さんの受賞を嬉しく思います。「漱石の妻」を拝見し、体が熱くなるようないい作品でした。もう2年半経ちましたが、毎年大山を思い出す機会を作ってくださる放送人の会の方に本当に感謝しております。みなさんおめでとございます。

放送人グランプリ各賞の贈賞

選考経過 選考委員長 西村与志木



私もADから始めて演出、プロデューサーという経験をしたつたお二人をみて「ああ素晴らしいな」と思いました。ドラマの世界に関わったことも素晴らしいし、それを評価されることも素敵なことだししみじみ感じています。

放送人グランプリは2002年に始まり、今年で16年目です。16歳、生意気盛りですが、これからどんどん成長していろんな方に賞を贈りたい、いろんな方を発見したいと思っています。この賞の選考には、まず2月の会報に「下馬評座談会」という記事が掲載されます。会員の何人かが集まって、今年1年の気になった番組、印象

に残った番組について語り合った記録です。その会報を参考に、あるいは個々の独自の見解で会員投票が行われます。投票は3月15日締め切りです。その投票結果を踏まえて3月31日に選考委員会を開きました。大山賞との連携もありますので、委員会には石橋冠さんにも参加していただきました。

いま7年目に入っています。いろいろ工夫を凝らしています。取材網を全国に広げ、地方の職人の伝統的な技を紹介したかと思うと、現代の最先端の職場も紹介します。いろんな工夫があつて、毎回「へえ」と思うようなことが一つや二つはあります。この番組のいいところは決して重くはないことです。バラエティーの明るさがドキュメンタリーにくっついていきます。強調したいのは何といつても中井貴一のナレーションです。早口でハイテンションの語りが何とも言えないバラエティー風味を番組につけています。

企画賞「サラメシ」NHK

講評 選考委員 河野尚行



この「サラメシ」という番組は昼飯に目を付けるところがミソです。私たちがふだん「メシでも食おうか」という場合、だいたい夜飯で友達やこれから親しくなろうという魂胆のある人を誘ったりします

が、「メシにしようか」と言う場合はだいたい昼飯、ランチのことで、同じ職場の日常風景の一幕です。そこに目をつけている。だからこの番組には街角のレストラン、職場の賄飯、会社の食堂などが登場しますし、時には新婚早々の愛妻弁当、お父さんが朝早く起きて息子や娘のために作る健気な弁当なども登場します。しかしよくある食レポの番組と違ってこの番組では昼飯の中に仕事の中身、職場の人間関係、家族の関係などが軽妙に描かれています。最初に見たときは「この番組は2、3年は続くかな」と思いました。

受賞者の挨拶

松葉直彦



テレビマンユニオンの松葉です。放送人の会はさすがですね。これまでやってきたこと、ディレクターたちと話してきたことを5分ほどの講評のなかでほぼ全部言っていたかったです。

すごく嬉しかったです。もう一つ嬉しいことは「サラリーマンNEO」が6年で終わって、あれを追いかけていた「サラメシ」は7年。「NEOを越えられた」と喜びました。吉田照幸さんと同じ年の受賞で嬉しい限りです。

働く大人の昼ご飯ということだけで、どれだけ遊べるか、視聴者が飽きる前に自分たちが飽きないように、と一つのテーマでずっとやってきました。これをNHKがどれだけ許してくれるか、これを契機に頑張ります。

優秀賞 NNNドキュメント「お笑い芸人VS原発事故」マコ&ケンの原発取材200日」

講評 選考委員 鈴木典之



私は不勉強で夫婦漫才のオシドリさんを全然知りませんでした。2月5日のNNNドキュメントを見てびっくりしました。関西のしゃべくり漫才の面白さにつられてみていましたが、

あまりにも意外性の連続で「本当にこんなことがあるのか」と正直に思いました。録画を再生して5、6回見直しました。私は3・11の原発問題に強い関心があつて関連の番組は最大限見ているつもりです。この問題にお笑いがどうからむのかと思ひ、間違つて受け取つてはいけなかつた。何回も見直したわけです。主人公の二人は一時の義憤や、奇をてらうものではなく、謙虚で冷静でバランス感覚をもつて、草の根運動として、自分たちでできることはとにかくやろう、と決心して一所懸命頑張っているということがよくわかりました。すっかり感激して、いま二人を応援しています。扱いようによつては際物になりかねない素材を、3・11の放射能汚染の本質を

つく問題作に仕上げた制作スタッフの手腕と見識は大したものだと思います。番組の見どころは東電本社の記者会見で冷遇されながらも奥さんのマコさんが東電側と「不都合な真実」について緊迫したやりとりをする。付度も「意向も考えずマコさんはストレートにぶつける。閉鎖的だった東電や記者会が反つて活気が出て「マコちゃんマコちゃん」と「名物記者」の扱いになった。最近のドキュメンタリーは現状打破のエネルギーに乏しい、自分の分を守つて小さくまとめる作り方に安んじているのではないかと感じていましたが、この番組はお笑いの装いで、実に鋭い現状打破の問題提起をしています。久しぶりにドキュメンタリーで留飲をさげました。

受賞者の挨拶 加藤修一



日本テレビの加藤修一です。原発事故が起こるまで原発のこととは何も知らなかったのですが、事故が起こつてからこれで7作目です。私もマコちゃんケンちゃんのことを知りませんでした。

噂を聞いて講演会を聞きに行ったら実に凄い。「大手メディアは今日のニュースのための取材だが、原発作業員のために同じ質問を続けた」という内容の講演会でした。講演会自体が面白くて感動するものでした。原発ものとしては不思議な世界でした。しかし面白すぎて、ネットを調べると「マコちゃんはデマばかり。風評被害をおおっている」との批判が多い。だから知

ついても番組にできなかったんだなと思ったのですが、待てよ、記者会見の記録は全部残っているんで、確かめれば、全部裏打ち出来る。そこで時間をかけてやってみると全部ある。これを全部並べれば大丈夫だと確信してやりました。おかげさまで、半々かなと思つていた賛同とパッシングは、95%くらい賛同で文句を言つてきたのは5%くらいです。ここにマコちゃん、ケンちゃんに来て欲しかったのですが、彼らは今日山口県上関原発の取材です。この番組は日曜の放送で、翌日東電の定例記者会見があります。放送後、マコちゃんが記者会見の場に入れるかと心配しましたが、すんなりはいれました。東電の懐は結構深い。いろんな心配をしておたが、まあ何とか乗り越え、こうして賞をいただき、めでたいです。ありがとうございます。

優秀賞 延江浩 講評 選考委員 三原治



延江さんは数々の賞、ギャラクシー大賞、日本文化基金賞、芸術祭奨励賞など一連の賞は全部取っている人です。今年度は東日本大震災6年目の特別番組として

「忘れない、伝えた」、僕たちの命の教科書など家族の心に残る作品を発表されています。放送人の会にラジオプロジェクトがあり、その会員の8人がグランプリの会員投票で延江さんを推薦しました。その中でも賞状に書かれている2本の作品の評価が

高く、絶賛でした。

「ボブ・ディラン」はノーベル賞受賞が発表になった直後に番組にしたトークドキュメントで、小室等さんとロバート・キャンベルさんが対談形式で番組を進行します。今の時代に何故ディランなのかを分析し、ディランのメッセージを解き明かしてゆきます。今年の京都大学の入学式で総長はボブ・ディランの「風に吹かれて」の歌詞を紹介し、常識にとらわれない発想の重要性を説いたそうですが、ディランの番組にこだわった延江さんのスタンスに通じるものがあるようです。

「井上陽水」はロバート・キャンベルさんが井上陽水の歌詞の意味を解説しようと井上陽水さんに迫つて行き、陽水さんがたじたじになるのが聞きどころで、8曲たつぷり聞かせて良質のエンターテインメントでした。

延江さんの何が凄いのか、何が優れているのかというと、プロデューサーとしての技量というところに尽きますが、まずは企画力です。延江さんがかわつた番組は時代性、今日性、洗練された発想力が卓越しています。例えば「ボブ・ディラン」はノーベル賞受賞が発表されて10日ほどで放送されています。決断力、フットワーク、編成を動かす力に舌を巻きます。さらには人脈です。凄い人を連れてくるだけでなく組み合わせが面白い。さらに付け加えるとチーム延江の豊富な人材です。主要なメンバーは何人かあるようですが、番組が変わることに高いクオリティを保てることに敬意を表します。

延江さんには作家としての顔もあります。小説現代新人賞を受賞。映画「大鹿村騒動記」の原作「いつか晴れるかな」があり、「愛国とノーサ

イド、松任谷家と頭山家は今年3月刊行です。「愛国」は頭山満で「ノーサイド」が松任谷由実で、頭山満の孫娘が松任谷家に嫁ぐことで生まれた両家の縁と変遷を描いたものです。延江さんの本の宣伝で私の話を終えます。

受賞者の挨拶 延江浩



過分のお言葉ありがとうございます。今日は総会から参加しましたが、お歴々の中で新入社員のADになった気分です。ちょっと散歩をしました。FM東京は国

国会は昨日強行採決で暗いのですが、麹町中学の運動会の子どもの明るい顔に力づけられ、今日栄えある賞をいただき頑張ろうと思う次第です。

ラジオは一人の力ではできません。出演者、スタッフの皆さんの頑張りがあってこの賞がいただけたのだと思います。とくに記憶に残る3人について話します。

一人目は倉本聰さん。一昨年、ラジオドラマの演出をお願いして富良野へ行きました。彼は「ラジオには画がないが、ラジオドラマは映像表現なのだ」と言い、富良野塾のひとたちを鍛えていましたが、怖くなるような演出で圧倒されました。彼がニッポン放送時代に作った番組では、無名の寺山修司とのちに奥さんになる京子さんの二人で銀座を100メートル競走をさせた。それをデンスケを担いで一緒に走り、しかも10

0メートル走を何回もやらせた。当時の若者の姿を描いたものです。

二人目は、いまも番組をやっていたらいる桑田佳祐さん。彼は「1から10まで音楽があったら3で歌唱はやめる。後はリスナーを信用する。10割やってしまっても入ってこない」と言う。「ああそうか」と桑田さんを身近に思いました。

3人目は、「現代用語の基礎知識」の編集者の方で、「毎日いろんな言葉を並べているが、一番のコツは忘れることだ」と言われました。忘れることで新しいものが入ってきます。今日のこと決して忘れませんが、自分を無になる瞬間をこれからも作って、自分を真っ白にして頑張っていると思います。ありがとうございます。

特別賞 山田太一ドラマスペシャル「五年目のひとり」

講評 選考委員 松山珠美



放送人の会に来ると、石橋冠さん、堀川さん、鶴橋さんなど、テレビで名前を見た生き神様のような人に会えます。そんな神様が若い人たちを表彰するというので

参加して、勉強しています。この賞は放送人の会の会員の投票と委員によるいろんな検討とで決まりました。内山聖子さんと五十嵐文郎さんの名前はテレビ朝のいいドラマでは必ずと言っていいほど、見る名前です。五十嵐さんはいま「やす

らぎの郷」もやられています。内山さんは「ドクターX」でがつつり稼ぎ、稼いだものをまわして、こんな良質のドラマを作っていることに感謝します。山田太一さんや堀川とんこうさんなど仕事をするときとたくさんさんのいいものが貰えるんですね。そんな場をうらやましく思います。おめでとございます。

受賞者の挨拶 藤本一彦



「5年目のひとり」は大震災から5年経ったドラマです。5年経つとどうしても風化してしまうのですが、ドラマが忘れられないいたための一助になったらと思います。これを山

田太一さんと一緒に企画なさった近藤晋さんが今年の1月お亡くなりになりました。この場にいらつしやらないのが残念です。今後ともこれを糧にいいドラマを作って行こうと思います。

受賞した「五年目のひとり」のスタッフ



準グランプリ NHKスペシャル「ある文民警察官の死」カンボジアPKO 23年目の告白」

講評 選考委員 藤久ミネ



この番組は昨年の8月13日に放送されました。この時期には戦争関連番組がNHKスペシャルでよく放送されますが、23年前にこういうことがあって、まったく報道されてい

なかったことに非常に驚きました。そして、PKOという非常に綺麗な言葉で言われている行為が、実は戦闘行為と何ら変わらないということもよくわかりました。岡山県警の若い文民警察官が亡くなるのですが、その亡くなり方があつけない。何とも言えない瞬間が心に突き刺さりました。フィリピンで死んだ俳人で詩人の竹内浩三の「骨のうたう」という詩を思い出しました。「兵隊の死ぬるやあはれ」とほい他国でひょんと死ぬるやあはれ「そんなフリーズが繰り返して出てくる詩ですが、戦場で本当に「ひょんと死ぬる」という感じで死ぬことがとてもよくわかりました。今南スーダンから帰ってきていない自衛隊のひとたちもたくさんいらつしやるし、どういふことが起こったのか、起こっているのか、きちんと報道されていない、私たちのところへ情報が届いてこない、とくに悪い情報はみな隠されてしまふ、そんな気がしている中でこの番組を拝見して本当に心を打たれました。私は放送批評懇談会にも顔を出していますので聞いてまわ

ったのですが、23年前にこんなことが起こったことを知っている人は一人もいませんでした。それを発掘して下さった。数日前の朝日新聞に、南スーダンから2千人ほどの規模で国外脱出が試みられているとの記事がありました。戦間なのか、武力行使なのかわかりませんが、こんなことが継続していることはよくわかります。できたら再放送をお願いします。いい番組を拝見することができて嬉しく思います。ありがとうございます。

受賞者の挨拶 三村忠史



私いま大阪に単身赴任していますが、2年前まで東京に勤めていました。自宅が河野尚行さんの近くで、いつも同じバスを使っている、河野さんの白髪をみながら、いつか河野さんに認められる仕事をしたいと思っていました。昨日共謀罪法が強行採決されましたが、この番組も一昨年安全保障関連法が成立してPKOの駆け付け警護が認められたことを意識して作りました。文民警察官のことは当時の報道、その後の報道も含めて23年間、ほとんど検証されていません。当時の報道はほとんど自衛隊の初めてのPKO参加を扱っていて、メディアの在り方を考えさせられるきっかけになりました。放送人の会の先輩のNHKの報道に対するまなざしは決してやさしいものばかりではないと思っていますが、今後とも努力してまいります。

グランプリ 池端俊策

講評 西村与志木

放送人グランプリは2002年から始まって今年で16回目、初めて脚本家を表彰します。その年その年で賞の内容は変わるなか、グランプリだけは不動の位置で、その賞を池端さんが授賞なさるのは私個人として非常に嬉しいし、皆さんも当然だ、むしろ遅すぎたとお考えでしょう。

池端さんは1946年、戦後の生まれ。戦後の70年を走り抜けてきた作家です。その作家が現役でばりばりやっている。そんな作家が存在することはわれわれにとつて嬉しいし、ありがたいし、さらに続けて欲しいと思います。今のテレビは時代とともに歩いているからと言えそうですが、若い作家が多く起用され、ベテランの作家の場は比較的少ない。その中で昨年放送された池端さんの「夏目漱石の妻」「百合子さんの絵本」の2作品は実に素晴らしかった。

池端さんは女性を見る目が鋭い。池端さんの中には女性の気持ちが見え込んでいる。夏目鏡子さんの狂ったような力、掘り起こされて行く百合子さんの思いの怖さと深さ、を池端さんは書いている。

私が「坂の上の雲」をやっているとき、池端さんには脚本監修をお願いしました。池端さんは「俺は書かなくていいんだな。ほかに対して言えるのは初めてだから凄く嬉しい」とにやりと笑いました。池端さんの「にやり」は怖い。池端さんが持っている本当の怖さ、凄さがあらわれていると思います。

本当の脚本家の受賞、おめでとうございます。

受賞者の挨拶 池端俊策



どうもありがとうございます。ここにいるんな番組で受賞なさった方のお話をずっと聞いておりまして、私がグランプリでいいのかと思います。西村さんから電話でお知らせいただいたとき、非常に嬉しくて、あの瞬間は一生覚えていきたいと思います。放送人の会には私を育ててくださった人がたくさんいます。今日まで書く場を与えてくださった方、後押ししてくれた方、一緒に走ってくれた方、名前を申し上げるときがない方たちが山積です。電話を受けたときその人たちの顔が目の前を、頭の中を通過していつ、何とも言えない気分になりました。これは素晴らしい賞をいただいたという実感がそのときありまして、一日興奮しておりました。ちょうど原稿を書かなくてはいけなかったのですが、その日は書けなかった。痛恨ですが、とても嬉しかったです。

私は1980年代にドラマという素晴らしい列車に飛び乗ったのですが、憧れていた脚本家が引つ張っていた列車の最後尾に飛び乗った感じで、遅れてきた青年のような感覚でしばらくドラマを書いていました。時代が変わって佐怒賀三夫さんに向田邦子賞をやれと言われて選考委員をやり、自分が飛び乗った列車がどんな列車か気がかりでした。一番気がかりなのは、顔の見える演出家、脚本家は何かいますが全体としては誰が撮っているのかわからない、演出家の顔が見えない、したがって誰が書いているかわからない、脚本家の顔が見えない状況が少しずつ増えていることです。放送人の会の方たちは顔が見えます。これからも顔が見える方が、ドラマを書き、撮ってくださるのがドラマ界の活性化です。顔がなくなつて、映画もある時期衰退した。署名性のある作家たちがいないといけないのだと実感しています。ことは私がたまたま賞をいただきましたが、顔の見える作家を作っていくことが放送人の会の役割、存在理由です。今日、授賞理由と受賞者のかたの言葉を聞いてそう感じました。さつきは堀川さんと雑談して懐かしかった。かつて一緒に仕事をした方がここには揃っておられる。この会で賞を頂いたのは本当に嬉しいことです。どうもありがとうございます。

懇親会

恒例の受賞者と会員との懇親会は千代田放送会館1階ラウンジで行われた。司会は西村与志木氏。飲み物、お料理が好評で、終始和やかな会が續いた。

今野会長挨拶

私はいろんな受賞式に行きますが、放送人の会の大山賞とグランプリの賞の授賞式が一番心打たれます。自分で表彰状を読んで、自分で感動しています。あそこでも多くの言葉が語られましたが、ここでも皆さんでお話してください。

乾杯の発声 松屋半一特別顧問

特別顧問は何をしていいのかわかりませんが、もう九十に近い年になりました。

放送人グランプリ2017、受賞者の皆さんおめでとうございます。私「放送人」というのがどうもよくわからない。新聞人があるから放送人なのか。放送人の会の下職をしながら文句を言うのは変だが個人的には「放送職人の会」と言いたい。今日授賞なさった方、贈賞した方、みな放送の職人であります。職人が職人を誉め、励ましあい、これからのことを語り合う、これからの仕事をしてくる人たちが集まりです。それでは乾杯です。

「放送職人の会、万歳！」
スピーチ

石井香織氏（「サラメシ」担当）

今日はいいい賞をいただきありがとうございます。小さいときからテレビっ子で、ドラマ、歌番組をよく見ていましたが、松本隆さん、阿久悠さんなどの名前と並んでテレビのテロップで何度も名前を見た方にお会いすることができて、とても感動し、緊張しています。入局して30年弱になりました。いま局の編成から求められていることは「若い人がテレビを見なくなっているから、将来テレビをどうするのか考える。考える」です。今日、この会に来て「やっぱりテレビはいい。みて欲しい」という気持ちを新たにしました。ネットにどう移行するか、ネットとどう組むかといったネガティブな発想にめげず、いいものはいいいと堂々と言おう、先輩方にもその背中を押していただきたいと思えます。

「サラメシ」についていろいろ言っていたいたのですが、嬉しかったのは「軽妙さ」で人を描

いているのがいいと言われたことです。苦勞して駆けずり回っているスタッフ、編集室にこもっているディレクターに伝えます。ありがとうございます。

旗手啓介氏（Nスベ担当）

この番組は、個人的にはもう少し早くやれば、という気持ちはあったのですが、警察官の方は組織にいるあいだは喋ったり、映像や文書を出すことは難しく、退職してようやく話していただき、こんな時期になってしまいました。警察官の方は、最初は逡巡し、今更という気持ちもあったようですが、話していただいてやっと番組にすることができました。先輩にみていただけて本当に嬉しいです。

露木茂氏（会員）

会員歴はたいへん古いのですが、欠席続きでした。しかし今日授賞した番組はほとんど見ております。素晴らしいグランプリの授賞式だと思います。今年の3月で大学も定年になり、年金生活になりましたが、いまはボランティア団体に所属して「出張授業」をやっています。中学生、高校生にどうやったら放送人になれるか、放送人になるためにはどうしたらいいか、というキヤリア教育、将来の希望をどうやって持つてもらうかの講義をタダでやっています。放送人の会が外に向かって広がる、実績を検証するのも大事ですが、いまの若い人たちに放送界に入ろうという気を起こしてもらおうのも大事です。今年は富山、高知に行き、今年の秋は埼玉、新潟と全国の学校をまわって子どもたちに「放送は面白いよ。見るだけでなく、番組を作るのは面白いよ」と伝える草の根運動をやっています。よろしくお願ひします。



懇親会 スタッフ

2017年度放送人の会総会

2017年度放送人の会総会は5月20日(土)午後1時から、放送人の会事務局がある千代田区紀尾井町千代田放送会館の2階ホールで行われ、会員総数254人中出席155(うち委任状104)で成立。事業報告、2016年度決算、2017年度予算、役員人事を承認した。予算、決算の対比表は左記の表の通り。

新年度からの役員は以下の通り。

理事

石橋映里	石橋 冠	板谷駿一	伊藤雅浩
加賀美幸子	加藤滋紀	金平茂紀	北村充史
工藤英博	隈部紀生	小池勝次郎	近藤邦勝
今野 勉	桜井 均	佐々木彰	菅野高至
鈴木嘉一	鈴木典之	曾根英二	田中秋夫
西村与志木	永田俊和	林 健嗣	深尾 隆一
逸見京子	堀川とんこう	前川英樹	三原 治
村上雅通	八木康夫	矢島良彰	山田良明
吉田賢策	渡辺紘史	(34名)	

監事 河野尚行 西川 章
特別顧問 松尾羊一

総会後の理事会で、新年度の会長には今野勉氏が昨年度に引き続き選任され、副会長は堀川とんこう氏と前川英樹氏が選任され、会長不在時の職務執行順位は堀川氏が1位、前川氏が2位と決まった。松尾羊一氏の「特別顧問」は定款32条の「名誉会長等」に基づくもので、総会の決議で今野会長から委嘱された。松尾氏から就任の弁(下欄)が寄せられている。

顧問は江戸小紋に通じる? 松尾羊一

小生、すでに牢名主的長老ゆえに新人事で特別顧問に任じられ、グランプリ2017の懇親会で早速カンバイの音頭を取らされた。初仕事である。

だが、一般的(世間的)に顧問とは一体何だろう。気になつて字典をめくると「相談を受けて意見を述べる役目の人」とあった。しかし、牢名主が述べる意見とは脱獄の手口ぐらいだろう。ロクなことではないのだ。

だが世の中を逆さまに譬えるならば、浮世とは鉄柵をめぐらされた憂き世に見えなくもない。収期が明け、定年で解放された大量のベビーブーム世代という名の「囚人たち」で溢れて居るのが世の中様なのだ。

昇格やら左遷やら、転勤イコール島流しで良くも悪くも選別されてきたライバル同世代間の葛藤でさんざ苦労し、ただ今自由の身になったばかりの同士たちに牢名主的意見(「顧問」が通じないことは分かっているのである。

むしろ「顧問」のお隣りに載つて「小紋」、さらに「江戸小紋」の解説に目があった。「江戸時代、諸大名が着用した袴の染めに由来する小紋は権威主義的でいかにもヤボである。むしろ遠くから見た場合に無地に見えるようにそつと気配りで文様を隠した。それをイキと称した」とあった。

役職や身分の価値観とは全く無縁なイキとヤボの境地に遊ぶ世俗知をお互いに知らしめる。それが特別顧問の役割ではあるまいか。

「てやんでえ、そんなこと知ったことかい」。これもお得意の顧問語のせりふかもしれない。

2016年度(平成28年度)・2017年度予算・収支対比

科目	2016年度予算	実績	2017年度予算
1、経常増減の部			
(1)経常収益			
①受取年会費	2,600,000	2,675,000	2,500,000
②受取寄付金	1,590,000	3,749,406	7,073,430
受取寄付金	90,000	169,000	150,000
受取寄付金(大山基金)振替額	1,500,000	3,580,406	5,700,000
③事業収入	1,980,000	2,078,937	17,730,000
放送番組センター共同事業費	1,800,000	1,800,000	1,800,000
イベント収入	180,000	184,000	180,000
放送文化基金助成(「証言」)			750,000
日韓中フォーラム助成関係			15,000,000
(JKA、放送文化基金、国際交流基金、民放等)			
証言プロジェクト		94,600	
④受取利息	0	337	
経常収益計	6,170,000	8,503,343	27,690,000
(2)経常費用			
①事業費	2,500,000	2,951,236	22,690,000
名作の舞台裏	850,000	728,121	600,000
人気番組メモリー	190,000	295,821	300,000
ドキュメンタリー・ワールド	50,000	0	50,000
放送人の証言(放送文化基金)	100,000	46,000	650,000
放送人の証言(通常予算)			100,000
証言プロジェクト		61,000	
放送人グランプリ	700,000	767,602	750,000
ラジオ・プロジェクト	50,000	10,000	50,000
放送人句会	70,000	109,233	90,000
日韓中フォーラム東京大会	400,000	815,601	20,000,000
②一般管理費	4,048,100	4,628,267	4,578,100
給料手当A	1,400,000	1,519,950	1,100,000
給料手当B(大山基金)		189,750	500,000
諸謝金	180,000	82,500	75,000
事務所賃貸料	863,100	863,100	863,100
通信費(含HPメンテ)	280,000	412,488	500,000
旅費交通費	250,000	461,860	350,000
会議費	130,000	143,206	125,000
印刷費	130,000	218,563	220,000
広告宣伝費(会報作成関係)	300,000	218,563	220,000
事務用品費	35,000	57,195	50,000
消耗品費	20,000	31,162	25,000
交際費	0	0	50,000
支払手数料等	30,000	41,644	40,000
支払報酬(含登記関係)	430,000	420,000	500,000
租税公課・雑費	0	400	0
経常費用計	6,548,100	7,579,503	27,268,100
当期経常増減額	- 378,100	923,840	35,330

ラジオのページ

放送人グランプリ2017 優秀賞受賞者 延江浩さんから喜びのメッセージが 寄せられました

絵のない、声と音だけのラジオ。「これはまるで『詩』だな」。ドキュメンタリーを多く作ってきましたが、最近とみにそんなことを思うようになりました。

整理され、テロップとともに時系列に沿ってわかりやすく時間が過ぎゆく映像と違い、人事柄、場所との関わりを音のみで構成していくラジオは、事実の断片を「詩」のように浮かべ、それらがリスナーの心の中で行きつ戻りつする構成をとります。できるだけ説明を省き、その円環の中で物語が立ち上がるのを待つ。断片が繋がってじんわりと匂い立ち、リアリティが生まれるのを辛抱して待つ。それがいわゆる「間」になります。

紹介する人物が既にこの世にいない場合、ドラマ的手法で俳優を起用してリスナーに直接語らせる時もあります(戦後占領期、GHQの文学的検閲をテーマとした『ポップコーン・オン・ザ・ギンザ 1945〜1952』では、検閲対象となった太宰治(長塚圭史、谷崎潤一郎(中村まこと)、織田作之助(玉置玲央)を生き返らせました。パーソナリティはロバートキャンベルさん。銀座を散歩する彼を当時導くのが白石加代子さん。演じる「百万回生きている」猫でした。

きよじつひま

近松門左衛門の『虚実皮膜』ではありませんが、虚構と現実の微妙な狭間にリスナーが迷い込めばしめたもの。リスナーはそこで

想像力を働かせる。ラジオはリスナーの想像力なくしては成り立ちません。

放送界、ラジオ界でお世話になった沢山のみなさま、ラジオディレクターという先輩詩人から多くのことを教えていただき、今さらながら言葉の大切さを感じるようになりました。

声を発しなくても以心伝心でわかり合える。逆説的かもしれませんが、作り手のこちら側も想像力を働かせ、雰囲気と間だけで言葉が通じるように工夫して。そこに言葉がないのに。望外の受賞を励みに、いつの日かそういうラジオ番組を作りたいと思いました。このたびは本当にありがとうございます。(FM東京)

「第2回ラジオ聞き酒の会」を開催 放送人グランプリ受賞者延江氏の作品を聴く

昨年末のある飲み会でプロジェクトのメンバー高田宏氏から「ラジオPのメンバーが集まってラジオ界の話題の番組や、面白いと評判の番組を聞く会を開きたい」との意見をいただきました。

ネットの時代に対応してラジオ業界がradioをスタートさせ、ラジオに接触する機会が増えてはいるものの、ラジオ界に関する情報が少ないためラジオプロジェクトのメンバー同士の情報交換が必要という意見です。

早速、主要なメンバーが集まった新年会で提案した結果、「ぜひやりましょう」との賛同を得て年6回程度隔月に開催することに

決まりました。

会の名称は「聞き酒会のように皆で味わいを楽しみながら作品の良否を話し合おう」との趣旨で「ラジオ聞き酒の会」となりました。その第2回が5月31日18時30分より第1回と同じ六本木のDUKEで開催され、下記の番組を試聴しました。尚、同番組は5月20日に行われた「放送人グランプリ2017」で優秀賞に選ばれた延江浩さんが制作された番組です。

(試聴番組)

ボブ・ディランノーベル文学賞受賞記念
「The Times They Are a-Changin」時代は変わる〜
出演/小室等・ロバート・キャンベル他
FM東京制作(2016年10月23日放送)

放送人の会(ラジオプロジェクト)新 入会員ご紹介

佐藤理恵子さん 1988年テレコム・ジャパン入社。テレコム・サウンズに配属されFMとAM各局の番組を制作する。その後フリーディレクターとして現在に至る。

地震被災者を励まし続けた深夜放送 佐藤理恵子

わたくしは1988年マルチメディア制作会社、テレコム・ジャパンに入社、子会社でラジオ番組制作を行っているテレコム・サウンズに配属されました。テレコム・サウンズではTBS、J・WAVE、FM802などの番組を制作し、20代でフリーのディレクターとなり、今日に至っています。フリーのディレクターとなつてからは多くの局で、

様々な番組を制作させて頂きましたが、中でも一番印象に残っている番組は、「ディブレイク」という番組です。

「ディブレイク」はFM東京をキー・ステーションに、全国の系列34局で月曜から木曜の深夜27時から29時(午前3時から5時)に放送された2時間の生放送で、日替わりパーソナリティが、それぞれ好みの洋楽を紹介する番組でした。わたくしはこの番組の月曜日を担当しましたが、この番組の放送中に起きたひとつの出来事が、今でも鮮明に心に残っています。

それは2007年7月16日(月)深夜に起きた出来事です。番組が始まって間もなく、スタジオの副調整室の電話が鳴りアシスタントが対応、「無理です、出来ないと思います」という押し問答が続いていました。曲をかけるタイミングで、アシスタントに誰からの電話が聞くと、「FM新潟の人からの電話で、ディレクターと直接話したいと言っている」とのこと。

この日、2007年(平成19年)7月16日は、新潟中越沖地震が発生した日でした。この日の午前10時13分頃、新潟県柏崎市の沖約10kmでマグニチュード6.8の地震が発生、新潟県長岡市、柏崎市、狩羽村と長野県の飯綱町で震度6を記録しました。この日の余震は80回におよび15名が犠牲に、津波も発生し、柏崎狩羽原子力発電所では、変圧器の火災、放射能の漏洩も発生していました。「新潟で何か重大な事が発生したのか?でももし何かが発生し、それを全国にニュースとして伝える必要があるとしたら、局の報道に連絡が行くのでは?音楽番組のディレク

ターに直接話したいとは、どういうことなのだろう：？」。受話器を取ると、F M新潟の方は、「新潟では現在も余震が続き、多くの方が不安な夜を過している。局には不安を訴えるメールや問い合わせのメールがたくさん来ていますが、現在はDAYBREAKをネット中のため、それに応える事が出来ない状態です。そこでF M新潟の代わりに、この番組からF M新潟を聴いている被災者のために呼びかけを行って欲しいのですが。」と仰ったので「F M新潟の方からのメールとしてご紹介しますので、新潟の被災された方々への励ましのメールを番組宛お送りいただけますか？」とお答えすると、これからニュース原稿を送るので、それをDJの人に読んでもらいたい、現在の被害の状況を伝えると共に、落着いて行動するよう呼びかけてほしい、とのお返事が返ってきました。現在各メディアが報道している大地震の被害の最新情報を全国に向けて放送するのであれば、局の報道が行うのが筋だと思い「それではニュース原稿をF M東京の報道ルームにお送り頂き、報道ルームのアナウンサーの方にニュースを読むよう、依頼していただけますか。」と提案したところ、「今、この時、このラジオを聴いている人に一刻も早く情報を伝えてもらいたいんです。報道に連絡している時間の余裕はないんです。」とのお返事が返ってきました。そこで「わたくしは局の社員ではなく、制作会社に雇われているディレクターですので、まずは番組プロデューサーに、指示を仰ぎたいと思います。少しお時間を頂けますか」とお答えしたところ「何分待てば良いのですか」とのお返事、「では

10分後にもう一度お電話ください。またその間に報道ルームにもお電話をしてみてください。」とお願いをして電話を切りました。電話の間も放送は続いており、しかもわたくしが担当していた月曜日は、かける曲のほとんどが1960年代の曲で、長さが2、3分の為電話で話していても2分前後で受話器を置き、キューを出して、次の曲をセット、また電話で話し、次の曲が始まる直前に再び受話器を置き、キューを出し、再度電話に出る、といったことを繰り返していました。その間アシスタントは、曲が流れている間にアナブースに入り、何が起きているのかをDJに説明、ミキサーさんが、電話の最中、曲が終わりそうになるとわたくしの目の前で手を振り、「そろそろ曲が終わります」と合図してください、といった状態でした。

電話を切った後アシスタントが番組のプロデューサーに何回か電話をしましたが繋がらず、10分後にはF M新潟の方から再び電話がかかってきました。報道ルームにニュース原稿を送り、電話をしたが繋がらなかったとのことで、DJがニュースを読むよう、再度依頼を受けました。そこで、プロデューサーと電話が繋がらず、個人の独断でDJにニュースを読ませることは難しい、また局のアナウンサーにニュースを読むよう依頼する事も、立场上難しい旨を伝えると「こんなにお願ひしてもだめなんですか、他の局にも同じ様にニュース原稿を読んで下さるようお願いをしましたけど、どこにも読んでもらえませんでした。私達の状況はどこにも解つてもらえないんですか！」と悲痛な声で訴えられました。そこで思わず「わたくしも今朝から

の報道で、新潟で大変なことが起きていることを知って、心を痛めています。被災した方々のために何かして差し上げたいと、個人的には思っています、思っているのですが…」と話しているうちひとつの案を思い付き、

「では、ニュース原稿を、リスナーからのメールとしてお送りください、リスナーからのメールで、しかも正確な情報であれば、DJが読んでも問題ないと思います。」と提案F M新潟の方も喜んでくださいました。が、数分後に送られてきたメールは、メッセージ+A4用紙5枚に及ぶニュース原稿でした。番組を進行しながらメッセージとニュース原稿をリスナーからのメールに再構成する時間も無く困っていたところ、局の社員であるミキサーさんが、報道ルームのアナウンサーさんを、スタジオに連れてきてくださいました。アナウンサーさんは「事情は伺いました。原稿が長いので、再構成して読みますね」と、ニュースを読むことを引き受けてくださり、数分後、東京F Mからの臨時ニュースとして、新潟の被害の状況を伝えると共に、被災者へ呼びかけることが出来ました。ニュースの後、全国のリスナーからは新潟で被災した方々への励ましのメールが続々と届き、番組後半は、被災地応援ムード一色となりました。番組終了後、F M新潟の方から「本当にありがとうございまして！」というお礼の電話を頂きました。ラジオとは電波を通して人々が不安な夜を共有ができる、そういうメディアなのだ、そして電波を通して不安な人々を励ます事ができるメディアなのだ、と実感した夜でした。

この報道は、ミキサーさんが動いてくれな

ければ、また報道ルームのアナウンサーさんが原稿を再構成して読んでくれなければ、実現しなかったことでした。お一人に感謝すると共に、災害時、人の役に立つ事ができたことに、大きな満足を感じました。

その日のダイブレイクがなんと美しく、清々しかったことか。

制作会社所属の自分が実際に報道に携わることが出来たことを誇らしく思いました。

イベントのご案内

日韓融和への友情秘話 特別ドラマ

希望の翼々あの時、ぼくらは13歳だった

故テレビプロデューサー大山勝美氏の遺作「希望の翼々あの時、ぼくらは13歳だった」(tvk開局40周年記念ドキュメンタリードラマ・平成13年3月放送が、東京西新宿の平和祈念展示資料館(総務省委託)で上映されます。この企画は、同資料館夏休みイベント「戦争のことを知る夏休み」子どもたちに伝えたい体験者のことば」のプログラムの一つです。7月29日(土)14時から、原作者の一人、寒河江正さん(放送人の会会員)と平和祈念展示資料館の増田弘名館長によるトークイベント「あの時、ぼくらは13歳だった」が開催されます。会員の皆様、ぜひ参加ください。

日時 7月18日(火)、8月21日(月) 10時、12時、14時(1日3回上映)
7月29日(土) 11時、ドラマ上映、14時、トークイベント「あの時、ぼくらは13歳だった」

場所 平和祈念展示資料館

新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル48階

(都営大江戸線「都庁前」駅A2出口から徒歩3分)

第62回放送人句会

平成29年4月12日(水) 於：赤坂・麦屋

選者：星野高士

出席：伊藤規郎、荻野慶人、近藤久二、

佐々木光野、鶴橋康夫、中島文博、

新村もとを、西川阿舟、深尾一化、

堀川とんこう(十一名)

兼題：石鹼玉(しやぼんだま)、浅蜷、都踊

洒落(業界用語)

【星野高士特選】

都踊昨夜会ひたる芸妓あて

裏路地の暗き翳ありしやぼん玉

浅蜷めし母の薄味お代りす

舞扇都をどりの帰りとす

砂噺んで別れ話や浅蜷汁

近ごろの石鹼玉割れにくきかな

大利根を越えて夜汽車の浅蜷めし

しやぼん玉登校拒否の児と猫と

池の面に動かぬ夜のしやぼん玉

声揃ふ都踊の裾さげき

【星野高士選】

猫鳴きて浅蜷潮吹く夜更けかな

へソ曲げし妻に割られしやぼん玉

退院が早まる友よ浅蜷汁

しやぼん玉希望は高く破れたり

もや

人声や露に漕ぎ出す浅蜷舟

いそいそと浅蜷潮吹く厨の夜

深川に來れば必ず浅蜷飯

浅蜷今生きざる海の砂を吐き

都踊り老妓の横切る濡れ小路

幼な声堀越え来るやシヤボン玉

銭すつてせめて浅蜷で宵の酒

浅蜷探る河口水深2メートル

石鹼玉ばちんと弾け風にとけ

海晴間浅蜷は孤独愉しめり

どの貝もよき絵柄なり浅蜷喰ふ

春の興洒落のめしたい世相かな

山吹を洒落と受けたる武将かな

祇園から離れて都踊りなり

祇園退き都踊は新舞台

洒落なるや都踊りに出てゐたり

NGも洒落で済ませる四月馬鹿

大御所の笑へぬ洒落を笑ふ春

ITの空に弾ける石鹼玉

駄洒落言ふ人は下戸なり花見宴

朝寝して洒落を言ひたる夢を見ぬ

シヤボン玉テレビ塔まで飛んで行く

早春賦遠く流れて浅蜷掘り

【会員互選】

水鉄砲洒落に吐きたるあさり貝

しやぼん玉飛んでテネシーワルツかな

ヨーイヤキヤード踊りとデモ隊と

恋しきは都をどりの脂粉の香

華やいで老妓も舞ふやヨーイヤサア

掘り帰る浅蜷海水風呂にをり

白き腿あさは浜であまた見き

尿もれの老いのベンチにしやぼん玉

虹色に揺るる丸顔しやぼん玉

希望だけは失ふなけれしやぼん玉

世の中をさかさに映し石鹼水

海暗闇浅蜷は孤独愉しめり

べんがらの出窓抜けたる石鹼玉

そぞろ足都をどりの音に合ひて

ふんはりと肩に寄り添ふしやぼん玉

久二

視郎

光野

久二

丈博

慶人

一化

視郎

光野

一化

光野

久二

慶人

丈博

阿舟

視郎

もとを

もとを

もとを

康夫

久二

丈博

丈博

光野

光野

丈博

一化

康夫

もとを

久二

もとを

一化

丈博

出舟煎搔つ込んでゐる浅蜷飯 一化
【選者吟】 星野 高士
昼酒の終りを告げし浅蜷汁
洒落者も都踊は控へ目に
浅蜷めし芭蕉稲荷を拝みきて
席決めず都踊の一幕目
法堂の龍とて都踊かな
仲直りしたくて吹きし石鹼玉
毀れざる空の一面しやぼん玉
次回放送人句会
○平成29年6月14日(水) 18時頃から、投
句締切19時
○赤坂・麦屋(投句 FaX03-3558-0056)
○兼題：五月晴、守宮(やもり)、十薬、化
粧メイク(業界用語)

第61回放送人句会

◇平成29年2月15日(水) ◇於：赤坂・

麦屋

◇出席：伊藤規郎、荻野慶人、佐々木光野、

中島文博、鶴橋康夫、新村もとを、西川阿舟、

深尾一化(8名)

◇不在投句：山県ほん太

◇兼題：春時雨、猫の恋、春菊、長台詞(業

界用語)

春菊のたかが苦味で仲違い

大屋根に月が出ていて猫の恋

菊菜摘みしきみの指先香り嗅ぐ

飛鳥へはあと駅一つ春時雨

だし抜けに筆先乱す猫の恋

先輩の訃報とどけり春時雨

いつそ止まずにゐてほしい春時雨

愛されずして道化の顔猫の恋

春時雨濡れてゆくかと気取る奴

木屋町より先斗町へと春時雨

春時雨小さくなりし妻といて

少年の鬱屈恋猫殺めたり

猫の名はミヤ子美貌で恋多き

住み馴れし露地の暗さや猫の恋

香りよき春菊にまづ箸のばす

まだ恋を知らぬ猫にて膝に乗る

いつの間にか道路濡れをり春時雨

春炬燵年寄り向きに長台詞

長台詞詰め込んで喰ふ春の餅

立ち喰ひの春菊香る天ぷら蕎麦

湯あみせば春時雨落つ露天風呂

猫さかるカステラを切る妻のいて

紅引くや少し濃い目に猫の恋

電車を走り抜けたる猫の恋

ダメ出しや春怨にじむ長台詞

雑巾のごとぼろぼろの恋の猫

まつ一献受けて湯の町春しぐれ

猫の恋鳴き声哀れ囁るるまで

恋猫の声を真似せりふられし夜

真夜中の道行き気取るうかれ猫

長科白要らぬ屋根裏猫の恋

春菊や湯がきて眩し旅に受く

長台詞噺んでセットの春埃

長科白エヌジは鶯のせぬ

就中揚げたるがよき菊菜かな

塩の道行きて甲斐駒春しぐれ

春しぐれ新たな出逢いありそな

猫の恋農婦ひたすら俯きて

池の面に御堂浮かべて春時雨

一化

康夫

慶人

もとを

康夫

康夫

ほん太

ほん太

阿舟

ほん太

阿舟

慶人

丈博

もとを

丈博

康夫

康夫

もとを

ほん太

視郎

ほん太

慶人

丈博

一化

もとを

光野

光野

丈博

阿舟

一化

光野

慶人

康夫

もとを

第44回名作の舞台裏

『陽炎の辻』

(NHK・2007年〜2017年断続的に放送)

日時・2017年4月18日13時〜16時

会場・浜離宮朝日ホール小ホール

ゲスト・山本耕史(出演) 一柳邦久(制作)

西谷真一(演出)

司会・渡辺紘史(放送人の会)

ゲストで出演の予定だった脚本家の尾西兼一氏は突然の体調不良で出演できなかった。入場者は320名、ほぼ満席であった。

10年前に放送された第1シリーズの第1回をみてからトークショーの開始

渡辺 まず、第1回をみた感想から。

山本 10年前と聞くとつい先日のような気もするし、遠い昔のような気がします。その後2017年の正月スペシャルで坂崎聲音をやっていますが、子供が出来、道場を背負っていて、その間の歴史を感じました。そんな経緯を経て、第1回の豊後から出てきて橋の上でおんさんに会うシーンをみると若かったなあと思います。これから何が始まるのだろうという気持ちだったことを覚えています。この10年の間に坂崎聲音は原作と一緒に成長したのですね。

一柳 とても懐かしい。主題歌を聞いただけで「ああ!」と感しました。

西谷 10年前の5月2日、茨城のワープステーションで橋の上でのおんさんとの出

会いのシーンを撮影したときのことを思い出します。ちょうど雨が上がって青空が見え、二人が衣装を着てやってきた。そのたまたまに心が震えました。私はもともと山本耕史さんのファンですが、この作品は絶対成功すると確信しましたし、私のこころの震えが作品に表れています。

渡辺 望遠レンズの使い方、空抜きの画、テンポの良さに、「青春ドラマが始まるよ」と感じましたが…

西谷 カメラマンは相馬くんですが、長玉(望遠レンズ)でも僕が言う以上に2倍3倍下がって撮ってやろうと燃えていました。

渡辺 佐伯泰英の原作をドラマ化する経緯を…

一柳 佐伯さんを知ったのは15年ほど前、まだほとんど無名で「密命」のシリーズを書き始めたころです。佐伯さんから手紙をいただいて本が送られてきた。「密命」の中の1冊とスペインを舞台にしたスパイ小説だったのですが、ピンとこなくて「いずれ機会がありましたら」と返事をした。それから数年忘れていて、新しい企画を考えると坂崎聲音の原作に出会い、読むと凄く面白くて作りたいと佐伯さんに連絡した。この原作には非常に新しいものを感じた。青春時代劇です。時代劇がどんどん年寄り向けになって若いひとが時代劇から離れて行く。そんな状況をなんとかしたい。若い人に喜ばれる時代劇を作りたい。そんな思いにぴったりの原作でした。

渡辺 山本耕史さんに決めたのは?

一柳 私です。青春グラフィティ「新選組」の群像の中で、私は藤原竜也か山本耕史と思

って「新選組」のスタッフに聞くと文句なく山本だと推薦されて一発で決めました。

渡辺 山本さんオファーが来て、どうでしたか?

山本 最初は愕然です。10年続けられた今でこそ正直に言えますが。

最初のころ温泉に泊まっただけのロケがあった。今は温泉にとまっただけのロケは少ない。ロケ地の人が親切で、スタッフは燃えていて、やさしさとよくよかさに包まれて撮られた作品です。

一柳 この番組は幸運に恵まれている。山本さんがこんなに役にはまるとは思っていないかった。ついでに番組です。

渡辺 「新選組」で山本さんは土方歳三役でブレイクして、エランドール新人賞を受賞。紅白の司会を担当。プロデューサーとしてはこんな人が主役をやってくれるだろうかと恐れた。

一柳 その通りです。売れている若い人は時代劇をやりたいがません。時代劇をやると終わりだ、トレンディドラマで華がなくなる。と時代劇にまわる、なんていわれる。時代劇は大変です。労力の割にはギャラは安い。

山本 確かに時代劇は時間、労力、そして所作、そしてわからないことだらけです。着物がうまく着られない、着物に着られているといわれる。若い人がやると「こんな若いのが時代劇やって」とみられがちです。ハードルは高い。僕はそのハードルの高さに興味がありました。僕にオファーが来たのはおじいちゃんが見ていたような重々しい時代劇でなくていい。重厚にものを言うなんてことをしなくていいのだと思った。新しい時代劇がで

きる、時代劇をやったら終わりではない。時代劇をやっているからこそ長く俳優をやれるのだと思います。(場内拍手 歳をとってから時代劇を始めるのは大変で、いい時期に声をかけていただいたと感謝しています。

渡辺 こんな山本さんを演出して西谷さんどうでしたか?

西谷 そばにいられるだけで嬉しかった。女優さんと話しているときに割って入ったりして、嫌われるのが怖かった。(笑い)

山本 西谷さんは第1回と最後の演出です。

第1回で黄色く光る月が出てきます。あの演出をやったのが西谷さんです。パート2、3では黄色く光らなかつたのですが、先日の正月スペシャルでは2回黄色く光りました。西谷さんは遊び心が多くて、大丈夫かなと思うようなことをさらりとやってのける。NHKの人のイメージが変わりました。

西谷 主人公のイメージのもとになったのは市川雷蔵の「眠狂四郎」です。映画の全作品をみました。それからまだ白黒の時代の民放の「新選組血風録」、土方をやったのが栗塚旭。この二つを頭の中で合成した。衣装選びでは山本さんの感性は僕と共通するものがあって、黒の着流しに赤い襦袢はすぐ決まった。歩くとき裾に赤い色が見えるのは色気がありますね。

渡辺 山本さんが主役に決まってから眠狂四郎をみたのですか。

西谷 そうです。

渡辺 脚本の尾西さんが今日体調不良でお見えになりませんが…

一柳 脚本は良かった。尾西さんとは付き合いが長く、最初はトレンディーなもの、それ

から時代劇を何本か書いて貰いました。トレンディなテンポで時代劇を書いて欲しいと最初は頼んだのですが、いまは時代劇専門です。今回の作品に尾西さんのテンポの良さがすごく生きている。

渡辺 「居眠り磐音江戸双紙」は今51巻まで、息子の空也が16歳、膨大なストーリーです。番組は磐音を中心に二人の女性、長屋の人たちを実にうまく織りなしている。大した技量です。尾西さんに原作について聞きました。

「第1話にすべてが凝縮されています。初期設定の見事に舌をまきました。これがあればこの後どんな展開になろうと脚本はできると確信し、その通りになりました」。

一柳 正直に言いますと、第1話の脚本は書き直してもらいました。貰った初稿は関前での話だけで終わっていたのですが、江戸の生活まで強引に持ってきて、おそめちゃんの話を入れ磐音が江戸に住みつくまでのものすごく早いテンポの脚本になりました。



山本耕史氏



一柳邦久氏



西谷真一氏



司会 渡辺紘史氏

音楽は佐藤直樹さん。それまでテレビドラマの音楽はやっていなくて「3丁目の夕日」など映画音楽で優れた業績があります。依頼するにあたっては佐伯さんの世界を理解してほしいと話しました。佐伯さんは元カメラマンで、東京オリピックを撮ったあとスペインへ行つて闘牛を追いかけた。その頃のスペインの闘牛は国民的な大娯楽で、マタドールは国民的英雄です。佐伯さんは牛と闘牛士の命のやり取りを撮るカメラマンとして生きた。それが時代小説の中にも生きている。

その話を佐藤直樹さんにしたらあの素晴らしい音楽ができました。衣装では、磐音のあの黒と赤の衣装は闘牛士のイメージからきています。これと佐藤さんの曲がマッチしました。

渡辺 磐音の役作りについて…
山本 一番大きいのは殺陣です。特徴のある殺陣で、攻撃するのは最後の一手だけで、それまでずつとかわし続ける。ふつうの殺陣では主役が攻撃し切られ役が切られる。そうで

はなくて磐音はひたすら受ける。受けるのがこんなに大変だとは思わなかった。原作では眠っているようなとか表現がありますが、殺陣から磐音の性格を具現化できてると思って殺陣師の方と相談しました。

それから、初日、中越典子ちゃんに「いまからセリフを2パターンやるから、どちらがいいか言つて」とやった。固い感じのものとふわつと自然な感じのものと。すると中越ちゃん「自然な方がいい」と言う。それから、構えないで、何となく自然にそこにいるというたずまいにしようと思つてやりました。

それが役の出発点です。周りに個性的なひとが多いので、その中で僕だけが透明というか白に近い主人公がいいのかなと。そうするといろんな瞬間にいろんな色に染まる。情熱的な赤、残酷な青、冷静な青に全部対応できるには個性を押し殺す。磐音の人生は助けを求めない、人に押し付けられないという生き方ですが、そんな役柄なんですね。「新選組」で永倉新八をグッさん（山口智充）がやっていま

したが、磐音の台本を最初読んだとき、これは永倉新八だと思つた。線が太くて、居眠りをして、どつしりしていて、凄く食べる。武骨だが剣をもつと強い。そんなところを目指そうと思つたのですが、そうじゃないな、決めつけないで自然にやればいいと思つたのが磐音のキャラクターになったのだろう。

西谷 第1回で塩谷瞬くんとの殺陣がある。塩谷の殺陣はほとんど初めてです。山本耕史さんが練習でかなりいじめたんですね。塩谷も負けん気が強いので、長い殺陣の練習をしているうちに本来持っている力のある男の目になってきた。1話の勝因は彼の目の変化にある。それに山本さんも触発された。

渡辺 磐音は浪人で武士を捨てて長屋に住みつく。よくある設定だけど、いいですね。
西谷 もう武士の時代ではなくって、今津屋のような商賈・金融資本が世の中を動かしている時代です。今津屋のような大商人から長屋の住人まで広い社会を描いていて、それがこの作品の魅力です。鰻割きの仕

事を聲音にさせるのは佐伯さんの凄いとこ
ろです。そのころ江戸で鰻が流行り始めた。
剣を使うから包丁も使えるというだけでな
く、手先が器用で柔軟だというキャラクター
を出すことに成功している。

佐伯さんは職人が好きで、聲音は小さいと
き大工になったかった。そんな聲音の幅の広
さを職人の世界を通してうまく描いていま
す。

山本 鰻割きの練習には結構行きました。リ
アルにやらなくてはいけないので、ある程度
までやれるようになりました。

一柳 山本さんは手品が得意で、本当に手先
が器用です。鰻さばきの手が綺麗です。今鰻
は貴重品になりましたがスタジオでさばく
鰻は天然鰻です。養殖鰻は弱ってしまいスタ
ジオでピンピンしているのは天然鰻に限り
ます。凄い贅沢をしていました。

渡辺 衣装とか鰻さばきとかいろんなこと
を身につけて自然に役作りをして行くので
すね。

山本 そうです。いろいろこだわっているこ
ろはありますが、自分で計算してやるとダ
メで「それいいよ」と周りが気づかされる
ことがほとんどです。そうやってキャラクタ
ーや作品はでき上って行く。西谷さんが黄色
く光らせたのを最初は「いったいこれは何だ
ろう」とおもった。すると「月の光だ」とい
う。「なるほど、それはわかった。しかし剣
を構えたときなぜ月が光出すのだろうか?」、
アニメの主人公が何かの時にキラキラ光る、
稲妻が落ちて変身するような、何かが始まり
そうなワクワク感を楽しんで作っておられ
たのでしょう。最終回のときは「今回は何回

ひかるんですか?」と聞きました。本当は1
回しか光らない予定だったようですが、僕が
「ここ光りますね」と言って「はい、わかり
ました」と光る回数が増えちゃった。(笑い)
後ろに人がいるのだけと何故か光る瞬間人
がいなくなる。あるはずのものがなくなる、
そんな不思議を乗り越えて作品はできてき
ます。妖術使いのようなそんな世界にもなり
ました。(笑い)それから空也という子ども
が生まれて人間世界に戻ってきました。

渡辺 この作品の舞台は1790年ごろ、江
戸時代が200年近く続いた時期です。武よ
り商、今津屋のような金融資本が現れ、お金
で政治を支配する田沼意次が出てくる。そし
て長屋の暮らしがある。それから、女性たち。
武家の娘で花魁になる奈緒、町娘のおこん、
町人の娘と武士の結婚は難しい、いろんな問
題が出てくる。脚本の尾西さんは「聲音と奈
緒、おこんの三人は私としてはよく描けたと
思います」と言っています。

―編集した二人の女性編を上映―

渡辺 原作では今、奈緒さんはどうなってい
ましたか?

一柳 完結編で出てきました。聲音さんとそ
っくりな人と一緒になった。

西谷 原作では娘が3人ですが、完結編では
2人にして紅花屋を盛況にしている。

渡辺 原作では関前に戻って紅花を栽培し
ている。当時の女性にはいろんな事情がある。
おこんは武家の養女になって聲音と結婚し
ている。

山本 この物語には武家のお家騒動がらみ、
用心棒としての切ったはったもあれば、長屋
での人情もあり、女性とのやりとりもある。

いまてみると、相当いろんな人を斬ったな
(笑い)いろんなことがうまくまとめられて
いるとあらためて思いました。二人の女性はい
ともに自然体の女優さんでやりやすかった。
事情は複雑ですが、誰かが誰かを蹴落とすと
か引きずり下ろす関係ではない。現代なら
「聲音さんどちらかを選んで」と言われそうで
すが、時代がそれを美しく彩ってくれたのだ
と思います。

渡辺 登場人物はみなそれぞれに柳をにな
っている。不正や義憤などをほらしたい思い
を鰻根は人一倍持っているはずだが、聲音は
静的に自然体で処して、ときにふつと涙
する。そこから時代の不条理さが浮かび上が
ってきます。そんなドラマ作りだったのだと
思います。西谷さんいかがですか?

西谷 頑張りました。(笑い)

―完結編の中の殺陣を中心に編集したもの
を上映―

渡辺 この完結編は5月12日、DVDが発
売されますので、どうぞお買い求めください。

西谷 殺陣には中国武術、剣法もあつたので
すが、今の編集にはありませんでした。

渡辺 聲音はめつたに人を殺しませんね。ほ
んど峰打ちです。

西谷 原作で殺しているものもテレビでは
あえて峰打ちにしているのがあります。

渡辺 聲音が殺すことの無意味さを言いま
す。

山本 パート1からずっと何人が殺めてい
ますが、ごく少ない。刀は刃が上を向いた状
態で鞘に入っていて、これを抜いてすつと斬
るのは簡単です。峰打ちにするには一瞬で刀
を峰に返さなくてはならない。その部分は特

殊です。トリッキーな動きはいろいろあつて、
走つての殺陣をドローンで追いかけて撮つ
たこともある。あのときは朝稽古のとき足を
くじいて、捻挫のようになりました。今日の
撮影は無理かと思つたのですが、幸い砂丘で
のロケで足に負担がからず、何とかやれま
した。殺陣では太極拳世界大会で2位、3位
の松浦くんという人がいて、これがいまま
でみたことのない速さ。僕が合わせられなく
も彼が速すぎてまわりではわからない。あれ
が一番凄かった。

いろんなタイプの人と戦つたので、いろん
な動きをみせてもらいました。

渡辺 殺陣のために強靱な肉体を作る努力
はどんな風に?

山本 この番組ではじっくり作りこんで行
くのでなく、その日に振りをつけてやるので
前から準備することはありません。刀は竹光
なので力是要らない。聲音の殺陣は重々しく
はなく、舞うような殺陣で力はいれない。し
かし舞台上で長丁場をやるためにはいやでも
体は出来上がっていきます。

渡辺 一番大変だった殺陣は?

山本 何十人も斬るのは大変です。僕は前か
らつけてもらうといくつかの手が湿さつち
やつて、ごちゃごちゃになつてしまうので、
その日につけてもらつてやるのですが、長い
殺陣は大変です。4、5手なら簡単ですが、
50手60手となると大変です。

一柳 殺陣は下手な俳優と上手な俳優では
まるで違う。出来上がりは同じように見える
かもしれないが、収録にかかる時間が全然違
う。山本さんは50手くらいを連続で全部で
きる。下手な人だと1手、1手ワンカットず

つ撮って行く。

西谷 多分出来上りの見た目も違います。

一柳 つまり、連続で殺陣が撮れるのはものすごいことなんです。長い殺陣は100手になることがある。それを割ってワンカットずつ撮るとワンカット3分としても300分かかる。5時間ですね。それが山本さんなら1時間で撮れる。収録の時間がかかるそれだけお金がかかる。「陽炎の辻」はロケが多く、しかも夜のシーンが多い。1日のうち撮影できる時間は限られているので、1日で撮れるか何日もかかるかでお金は全然違ってくる。時代劇が衰退するのはお金がかかるからですが、こんな殺陣ができる俳優がいるということとは物凄いことなんです。

渡辺 お金がかかって時代劇が衰退すると言われましたが、2011年にNHKの地上波から大河ドラマ以外の時代劇はなくなりまし。今はBSで単発的にやられています。「水戸黄門」も同じ2011年になくなっています。「鬼平」や「必殺シリーズ」もレギュラーは終わってしまいました。時代劇は冬の時代です。最後に時代劇復権へのみなさんの思いを伺います。

西谷 演出の立場から言えば、時代劇は普遍的な愛や憎しみを現代劇より濃縮して描ける。現代劇でタブーとされていることもストリートに描ける良さがあります。NHKエンタープライズではBS土曜午後6時からの「忠臣蔵の恋の枠で新しい時代劇をやりますし、決してあきらめてはいません。時代劇は面白いと思います。求めている人はいると楽観しています。

一柳 時代劇は濃縮されたドラマです。フィ

クションとしての面白さは現代劇よりはるかに上のはずです。シエイクスピア劇のように、人間の感情を凝縮して表現できる。これがすたれるのは困る。数が少なくなると演出家も俳優も育たない。美術、技術もそうで、ドラマ界の財産が減っていくのが心配です。山本さんのような若手の俳優ががんばって時代劇ファンを引っ張って欲しい。

渡辺 尾西さんのメッセージをお伝えします。「面白い時代劇をこれから私も書いて行きたいと思います。そのためにはテレビ局が時代劇を捨ててはいけません。特に皆様のNHKはなおさらです。視聴率……は関係ありません。視聴者はバカではありません。若い人に楽しんで貰うために我慢して時代劇を続けるべきです。そのうち何か引掛かります。それを起爆剤として新しいヒーローを創り上げるのではないでしょう」

山本 僕の立場からは時代劇はまず作品があつてからのことで、「時代劇を創って行く」とは俳優が声をあげるのには難しい。しかし「陽炎の辻」がこれだけ長期間の番組になったのは何かが見る人の気持ちに引掛かったのだろうし、時代劇が少なくなっている中、見る人の心を捕まえたのだと思います。手探りでやっているうちにお客さんから「面白よ」と声がかかってくる。その交流がないは未来のものを見る人は待ち望んでいるでしょう。時代劇が少なくなると俳優が育たない、伝承が伝わらない。とにかく時代劇を続けて俳優を育てるのが第1歩だと思えます。

第43回名作の舞台裏

三匹のおっさん

(テレビ東京 2014年、15年、17年放送)

日時 2017年2月19日(日) 15時半〜18時半

場所 イイノホール(東京都千代田区)

ゲスト 北大路欣也(出演)

泉谷しげる(出演)

志賀廣太郎(出演)

猪原達三(監督)

井上竜太(制作・ホリプロ)

山鹿達也(制作・テレビ東京)

司会 渡辺紘史(放送人の会)

第3シリーズ第1話を上映してからトークショー開演。まず、北大路、泉谷、志賀の3人が登場。舞台中央で並び「俺たちか？俺たちは3匹のおっさんだ」と決め台詞をのべ、拍手喝采を受けて着席。



渡辺 「名作の舞台裏」は今回で43回を迎えますが、今回初めてのことが二つあります。一つは現在放送中のものを取り上げること、これが初めてです。主役の3人全員がそろって来ていただくのも初めてです。(拍手)では、まずこの企画のスタートから話していただきます。

井上 これは現代劇ですがが痛快な時代劇のイメージで、原作を読んですぐドラマ化したいと許可をいただきました。そのとき、1匹は北王路さんと決めていましたが、あと2匹をどうしようと考えていたとき刑事ドラマに出ている泉谷さんに出会い、「2匹目がいい！」(笑)

渡辺 失礼しました。6匹のおっさん、私も含めて7匹のおっさんが登壇するのは初めてで、段取りを間違えました。最初に、北大路さんの挨拶からお願いします。

北大路 つい何分か前に約束をして、「喋ってください」というのでずっと待っていました。(笑) 皆さん今晚は。

今日、私はキヨの衣装のまま来ました。ですから今はキヨです。キヨとして話をしたいと思えます。実は今日も昼間ロケをしてきて、明後日、その後と続きます。その気持ちのまま皆さんとお会いできる機会はめったにありません。どうか気軽に質問などなさってください。

泉谷 おい、わ・た・な・べ。お前めちやくちやじゃないか。しつかりしろ。(笑) 2匹目の泉谷しげるです。まあ、ざつくばらんに行きましょうよ。こんな殺風景なおっさんの企画はあちこちのテレビ局で通らなかった、よくテレビ東京が拾ってくれた、と感謝

しなくちゃいけない。いい加減にしろ！この野郎！（笑）そんな事情よりも同じ世代の北大路さん、志賀さんと楽しくやれていることが何より幸せな時間です。これからも頑張らせていただきますよ！

志賀 通称ノリをやっています。どういう経緯で3匹目になったのか全くわかりません。巷でよく声をかけていたのですが「3匹のおっさん」と正確に言うひとは少なく「3匹のおやじ」とか「3匹のじい」 「3匹のお父さん」 「3匹の子豚」と言われたときは驚きましたが、最近直球です「3匹の侍」（笑） そんな具合に多くの方から声をかけられ、それが現場に反映し、楽しい現場になっています。

山鹿 この番組はテレビ東京が金曜8時にドラマ枠を新設するにあたって、ホリプロから提案いただいたものです。北大路さんと泉谷さんは早く決まったのですが、3匹目はなかなか決まらない。たまたま青山での舞台で志賀さんがしよくれたおじいさんの役をやっているのを見て「あ、ノリさんがいる」と思いました。それですぐ話をするとう川浩さんの原作も読んでおられて、快く引き受けていただきました。

渡辺 そして「3匹のおっさん」はテレビ東京で最も視聴率の高いドラマ番組になった。**山鹿** それまでテレビ東京は連続ドラマをやつてなくて、これは金曜8時枠の第2弾です。初回から11%をとり、第1シリーズの平均で10・6。テレビ東京としては事件が起きました。テレビ東京としてはどう喜ばいいのか、喜び方もわからず、とりあえずお花を贈りました。視聴者からの手紙もお子

さんからお年寄りまで数多く、すぐに次のシリーズをやることになり、そしていま第3シリーズです。

渡辺 なぜこの人気なのでしょう？

猪原 1話の2時間はストーリーがしっかりしているし、3人のキャラが立っているし、原作は面白いし、できあがって、これはまだまだ十分いけると思いました。しめしめ、と思つて第3シリーズまで続くのは意外ではありません。

渡辺 演じるにあたって思つたことは？

北大路 1回目とき、監督と話し合いをしました。サラリーマンが向こうつ気の強い相手に会つたときの反応をどうするか。脅えてやるか、平気でやるか。脅えてやるのもあつたかもしれない。それならそういう形に作らなければいけない。しかしこれまでの体験から実感から行くと、頭にきたら、素直に頭にきた方がいいだろう、と思つて、監督にそうしたいと言つてスタートしたのを覚えています。あまり作らず、自然のままに現場に立つことをいつも心がけています。

渡辺 町内で剣道を教えていてサラリーマンをリタイヤしたひとだから、ときに若い時の血が騒ぐのかな？

北大路 原作にはそんなニュアンスがちよつとある。でも、やるのは僕なので、一番自然な形で外に出て行ける感覚を掴めるのがいいと思ひました。

泉谷 柔道着がいやだったね。寒いんだよ。みんなはいいよ。いろいろ着てるから。俺は裸だ。何とかしてくれよといったんだけど、みんな笑いやがる。

猪原 あの時相談して、柔道着でなくてもい

いですよ、と言つたら、いや柔道着で行くと。



左・泉谷しげる氏 右・猪原達三氏

泉谷 なに？監督それは違うだろう。ま、それはおいて、話を戻すと、同じ世代として体験が似てるんだ。キャラクターという前にそんな子どもで育つた大人をやればいいの、という感じだ。昔の大人は平気で殴るし、ひるまない。恐れはあつたかもしれないが、知らない子どもでも平気で叱つていた。あの感じを今やれるのは、これはチャンスだなと。これはもう、やるべきだと、思ひました。いつもそんな思ひ出話をしていました。今の時代でなく、お父さんお母さんの世代を再現したから良かったのだろう。

渡辺 なくなりつつあるものがきちんと描かれることで、皆さんの支持を得られたのですね。

志賀 泉谷さんが言つたことと同じことを考えていました。小さいころ、原っぱがあつて、小高い丘があつて、学校から帰るとランドセルを放り投げてそちらへ行つて、暗くなるまで近所の子と遊んでいた。上級生が下級

生の面倒をみ、他の地区の子どものいさかいがある。そんな子どもがそのまんま大人になった。そんなことがいま忘れられつつある。私たちの世代ともう少し下の世代まで、それが残つていると思ひが、このドラマはそれを思い出させて、そして痛快なのだと思います。役作りについてあはあまり考えませんでした。何が正しくてなにがいけないことが自分の中でしっかりとっている、そんな役だと考えていました。

渡辺 娘の早苗とキヨの孫の祐希くんとの恋愛に警戒心怠らず監視しています。

志賀 あればポーズもちよつとあつて、キヨちゃんの子孫だからしっかりと子だと思つて育つた娘をそう簡単にはやれないという気持ちもある。

渡辺 第2シリーズが終わるころは有川さんの原作はほとんど使われてしまつて、全部新しい話を作りながら進行している。

井上 有川さんからは自由に作つてくださいます。と言われていますので、脚本家の方と一緒にストーリーを作り上げています。

渡辺 今日見たのは民泊の詐欺にあつた外人客を道場に泊めるという話ですが、商店街が重要です。居酒屋「酔いどれ鯨」は商店街のサロン。

泉谷 いま住んでいる中目黒の商店街はつぶれかけたけど最近勢いをとりかえした。街の気質があつてここではブランドものが売れない。形は変わつても街の気質が商店街を良くして行くのだと思ひ。そんな街の気質をくまなくでは店は悪いの場にならない。回

を重ねるたびに余計な気を使って、しなくてもいいのにつけにしてやって奥さんに叱られたりする。そこで生まれる信頼関係が商店街をつぶさない。中目黒はサクラが綺麗な、もったいない、とみんなが集まるようになった。あんな食い物のまずいところはない。(笑い)

渡辺 このドラマの舞台はどこを想定していますか？

井上 一応、板橋の下町。ロケはいろんなところでやっています。



井上竜太氏

渡辺 今日は荒川の土手が見えていました。

井上 ラストシーンは監督がこだわっていた場所で、運よく非常に綺麗な夕景が撮れました。

渡辺 おっさん3人は小学校の同級生。こんなつきあいは珍しい。北大路さんの小学校は？

北大路 京都です。撮影所では千恵蔵先生が嵐山に住んでいるので「山」、父の右太衛門は「北大路」と呼ばれ、私が12歳のとき、知らないうちに「北大路欣也」になっていた。それは別として、僕の少年時代は魚屋さんが天秤かついで売りにきていて、夕方に

なると街の角にいろんなものを売りに来るひとが来て、遠くへ買い物に行く必要がなかった。そんな江戸時代の街のような雰囲気。少年時代に味わっている。子どものころのアルバムを見るとこれは3匹だと思う写真があります。腰に木剣とピストルを差して遊んでいました。そんなわくわくがいっぱいあった少年時代です。そんな懐かしい思い出の中のこの仕事をしています。それが5、6歳の子どもに通じるのか、僕にラブレターが届きます。「がんばってね！」って。おじいちゃん、おばあちゃん、親、子、孫と連動して感じるものがこの番組にはあるのでしょうか。とても暖かいものを感じています。

渡辺 私の世代はラジオの新諸国物語を聞き、市川右太衛門さんの映画を見て、それにかぶれました。物差しを刀の代わりに腰に差し風呂敷で頭巾をし、ちゃんばらごっこで走り回っていました。そんな感覚での悪者征伐。大上段に構えて俺が正義だというのでないやわらかな感じの悪者退治がこの番組にはある。

志賀 僕にも風呂敷で頭巾の体験があります。親が映画好きでよく連れていかれました。帰ってくる時見た映画のことをずつと喋って、真似していました。僕は東京でも3つの学校に行っていますが、住んでいたところにもかたまっています。具体的には祖師ヶ谷大蔵、馬込、浜田山などです。浜田山は幼稚園で、3年に1度くらい同窓会があります。社宅にいましたから社宅にいた子どものことをよく覚えています。今住んでいるのは小田急沿線ですが、ちよっと飲みに行くくと近所の付き合いが結構ある。昭和30

年代までは北大路さんが言った御用聞きが来たがスーパー、コンビニができてだんだんなくなりました。スーパーは便利ですが、商店のひとが「おじいちゃん元気になった？」と声をかけてくることはない。一人の客と5分くらい平気でしゃべっている方が付き合いたいとして楽しいじゃないかと思えます。スーパーやコンビニは店員によりますが、「こんにちわ」は「も」ありがとう」も何にも言わない。

志賀 肉じゃがだのおでんのだ、ストーリーとは関係ない食べ物が出てきて、カットとカットの間に井いっぱい食べる。ラーメンは3杯食べた。

泉谷 ほんとうにいいんだよ。もったいないんだよ。

北大路 3時間のライブを一人でやるのに体力が要るんですよ。お茶漬けじゃもたない。自分じゃない。胃が要求してるんだ。

泉谷 待つて下さいよ。わたしはなにものですか？しかし、条件が悪いといろんなアイデアが出る。俺なんか台本読んでないからよくわからないけど、(笑い) 台本読むと怖く



北大路欣也氏

猪原 いや、台本はシゲに合わせて書いてある。

泉谷 台本読むと、この男の演出はどう来るかと恐ろしくなるんだよ。

猪原 泉谷さんはさっき寒いから忘れたとか言いましたが、そもそもセリフはすべて忘れていましたね。(笑い) 真つ白のままやってきて、「どうすれいい？」と言う。こんな方は珍しい。一言も覚えてないから現場では

プロンプトをしてあげる。ありえないことですよ。



猪原達三氏

北大路 セリフはノリが一番かつちりしている。

猪原 泉谷さんに一番きついのが志賀さんです。泉谷さんはセリフの順番間違えるから。

泉谷 あんまり俺のことバラすなよ。(笑い) そんな言ひやないだろう。しかし、今回のドラマの面白さは心の声をあみだしたところじゃないだろうか。許せないスクリーンターがいるんだ。記録する係だね。これがうるさい。こつちの手がこうで、あつちのてがこうだった、とか。知らねえよ、そんなの！(笑い) 覚えてないよ。そんなものわかりやしないよ。

猪原 現場にカメラを2台、レコーダーを2台持ち込んで撮影していて編集すればたいというまぐいくのですが、泉谷さんは難しいなるべくつながるように撮っているのですが、ダメなときダメです。

泉谷 心の声、セリフの間のやつ、あれはいんじゃないの？

猪原 吹き出しのことですね。有川さんの原作にも嫁姑の会話の本文や祐希の内心の声がか明に書いてあり、脚本ではト書きが非常に面白い。「これ、何かに使える」と考えて1話であんな形で入れてみたらかなない

ける。ホームドラマでは日常不満に思っても我慢していることが多い。これをオフにしないでオンにしたら面白いかな、と思ってやりました。中田喜子さん(キヨの妻)と西田尚美さん(キヨの息子の妻)のコンビは最高におかしかった。これを作って行くのは僕らのひそかな楽しみです。ということは3人のキヤラがたつていて、家族構成がうまくできていくからでしょう。

渡辺 悪者を退治に演歌で登場するシーン、あれを語ってください。

北大路 竹刀は武器ですからこれをふだん持ち歩くことにはためらいました。持ち方をあんな形にして、威嚇しなければ許されるかなと。「なんでそんなものを持つているのか」と聞かれると「いや、公園で練習していました」と言い訳する。まったく持たないと原作から大きく離れる。武器ではなく叱るための道具です。僕はまもなく74歳です。この歳になつてのチャンバラこつこは実に楽しいですね。(笑い) こんな状況設定でなくちゃできない、うまい状況を作っていたきました。

渡辺 悪者が心底悪くはなくてどこかにエクスキユズがあるので、悪者退治が安心して楽しめるところがある。そこらはどう考えて作っていますか？

猪原 ノリさんの電気のビリビリは剣道より、柔道より強力な武器です。一般では絶対に使つてはいけない。ビリビリとやつたときに骸骨を見せることでフィクションとかマンガにして結果オーライになった。弱そうな志賀さんがやつて、骸骨があれば許してもらえらるでしょう。

正義をどう見せるかについては、有川さんが時代劇の方法をよく知っておられます。答えを出そうとするとき剣で見極めて行く。剣を持つとサラリーマンでなく剣術家になる。そこに価値観が生まれ解決が生まれる。有川さんにこの作品を「ホームドラマで作ります」と言ったら「いえ、これは時代劇です」と即座の答えでした。「そうか、勧善懲悪なのだ」と目から鱗でした。

渡辺 青いバックライトの中から演歌を歌つての登場は完全に時代劇の水戸黄門の印籠のようなシーンですね。

北大路 歌は僕が歌いたいと言つたのですが、あのシチュエーションには驚きました。枯れ葉が飛んでいるのかと思つた。見る人もそうかもしれないが、あれで、われわれも別世界へ、のつちやうんです。「さあやつてやろう」という気になる。スタッフみんなで作つてくださった場に登場するのですから本当に気持ちいい。

猪原 あの कोरोロはマカロニウエスタンですね。美術さんがあの कोरोロを用意していたんです。本当にやるのかと思つていたのですが、北大路さんはじめ皆さんにうけて掘り出し物だと思つています。チャンバラ風の現代フィクションですからあんなのが出てくるんです。

泉谷 あのさあ、1回で決めてよ。何回もやらせやがつて。(笑い) 流れが悪いとかなんとか、いいじゃねえか！

志賀 私もある कोरोロを投げたけど、見事に私の前で止まつた。それを蹴飛ばしたらOKが出た。

渡辺 連続ものの良さですね。

北大路 このジャンパーは74歳が着るものじゃないでしょう。祐希くんが「これ着ろ」といつてリビングに持つてくるんです。「こんな派手なのが着れるか」と言いながら着ている。あのシーンがあつたのでどんな派手なのを着ても大丈夫だ。孫とジジイとの接点は嬉しい。祐希はだんだん本当の孫みたいになつてきて、愛情を感じます。3年たつてかれものすごく成長した。みていて清々しい。今度はどんなジャンパー着ようかと考えます。(笑い)

渡辺 このドラマのポイントは3世代がきちんと描かれていることですね。ところで、武術をやつて体力的に大変じゃないですか？

泉谷 武術ねえ。昔は自分でやつたけど、いまは事故が起るからやらせてもらえない。かつては命がけでしたね。

北大路 危険なときはストップがかかります。アクシデント起つても支えられるよう鍛えたひとがやつてくれないと仕事はストップする。

泉谷 昔の人は何かやつて。身についたものがある。剣道とか。

北大路 いや、剣道とチャンバラは違う。剣道の達人な人はチャンバラがやりにくい。剣道は決まつた型があるがチャンバラは滅茶苦茶で、ある種の舞踊だ。剣道の達人はチャンバラに苦労する。だげど構えたときの腰のすわりなど、達人はやはりたいしたものだ。昔のフィルムをみてその通りやろうとしたことがありますが、正直できません。何十人かかつて同じ動きをつけてもらつて練習するけどできない。凄い訓練をした人が時代劇

の基本を作ったのだと実感しました。先人は偉大です。その先人への憧れがあるからいまやっているのかもしれない。

渡辺 道場で足を180度に関くシーンがありました。訓練はなさっているのでしょうか。

北大路 かつて撮影所の前にジムがあり、そこで高倉健さんと練習していると田中邦衛さんが来て、「なんだ体固いなあ」と言う。「じゃあ、やってみせて」と言うつと、ぴしゃーと完全な開脚。なにやってもやわらかい。スポーツ万能、野球が大好きその田中邦衛さんにバカにされて高倉健さんと僕は柔軟をやるようになって徐々にできるようになった。いまも続けているからあれができるんです。急にやると危ない。

泉谷 先輩たちは雑巾がけやつても腰が強い。

北大路 昔、親父に聞いた話だけど、六代目菊五郎に父が若い時お目にかかったとき、「足を触ってみなさい」と言われて触った。鋼鉄のような固い、鍛えられた足で「こまで鍛えなきゃだめだよ」と言われた。親父はふだんからよく歩いていて「何事も足腰だ」とよく言いました。80何歳かでも歩いていて、いつ仕事がきても出来るよう準備していました。僕らとは違います。

渡辺 志賀さんは何か健康に気をつけることは？

志賀 酔っぱらわないように気を付けているくらいですが、学生時代に体操でマット運動、バレエ、日舞もやりました。子どものときはよく駆けまわりました。比較的基礎体力はある方だと思います。今その財産を食いつぶしているところなんです。今腰の調子が悪くて控えて

いますが、歩くのは好きで、腰の調子が戻ればどんどん歩きたい。



志賀廣太郎氏

渡辺 ロケの話にもなりますが、清田家には凄く広い道場がある。あれはよくみつめましたね。

猪原 あれは川口です。TBSの「半沢直樹」で剣道のシーンがありました。あれで使った剣道場です。綺麗な建物で、2世帯住宅で剣道場というところあれ以上のものはないでしょう。

渡辺 あんな場所や街を見つけるのはテレビ東京の得意技ですか？「もやもやサマーズ」とか。



山鹿達也氏

山鹿 ドラマとバラエティーは若干違うと思いますが、優秀なスタッフにいいロケ地を見つけてもらっています。実はシリーズ1、

2、3でロケ地は違いますが、違いがわからないようにうまく飾り付けをやっています。

渡辺 このドラマでお饅頭が発売され、今日も控室にありました。清田家で毎回食べるのはこの饅頭ですね。

山鹿 三匹のおっさん饅頭」というのですが、テレビ東京のアンテナショップや通販で売っています。6個入りで972円とちよつと高めの値段ですが、おいしいと評判です。パッケージにキヨさん、シゲさん、ノリさんの似顔絵が描いてあります。

渡辺 先ほどのドラマは時代劇ということになりましたが、やはりホームドラマです。時代劇もホームドラマも絶滅危惧種と言われているような変わった設定を考えたりしていますが、これはうまい設定を見つけたのだと思います。最初はどんなことを考えたのですか？

井上 原作が勧善懲悪だけでなく、ホームドラマの良さがあるので、いろんな展開はあっても最後は3匹の家族のところへ帰ってくるドラマにしようと考えてきました。最後には団欒で家族で話し合うドラマです。

山鹿 僕がテレビを見始めたときはホームドラマの全盛期で「ありがと」「時間ですよ」など、毎回1話完結、いろんなドラマがありました。変わらず見たいのはホームドラマだと今でも思っています。そのホームドラマを生かすための時代劇。この形しかホームドラマの復活はない。

渡辺 最後に朝日新聞のラテ欄の投書を紹介します。「現代版勧善懲悪もので、現代に起こりうる犯罪をとりあげ、おっさん(北大

路欣也、泉谷しげる、志賀廣太郎)が悪を成敗するので留飲を下げる。3日(放送)はチケット売りノルマの話、騙されるのは高齢者、おっさんお家族がホームドラマ風に挿入されるのも楽しい。全世代が楽しめるので長寿番組になることを期待したい。(拍手)

最後に、言い残したことがあればどうぞ。

泉谷 現在起こるなにげないような事件を盛り込んでいるのがいいのじゃないかとよく喋る。待ち時間が長いので結構喋るんです。世間話風に「俺たちがめざすものはなにかなあ」などと考え、自分たちの世代の思い出をどうやってみせて、どうやって今の世代とつながって行くか。考えてみると、最近寛容さがなくなっているのはむしろわれわれの世代だ。子どもの声がうるさいと幼稚園を作らせないのはわれわれの世代だ。われわれの方で若い世代との時間を遮っているのではないか。歳をとってどれだけ寛容でいられるか疑問だけど、僕は子どものうるさい声を聞く幸せを感じる。子どもたちの声は実にうるさい。しかし、幸せだ。それがだんだんうるさく感じるのとは体力かな。孫がいるが、俺はひねくれているから孫が俺を頼りにするのは金目当てだ。この野郎！と思う。しかしやっぱり金なんです(笑)。この前統計を紹介する番組で、旅行など親と何かをするとき親にお金を出させない、負担させない。どうして出してもらわないのかと若い夫婦に聞くと「親孝行したいから」と答える。どうも我々は若い世代はこうだと決めつけて誤解し、うまくゆかないのではないか。このドラマでそこをさらっとやれるといいなと思います。(拍手)

いろはに時代劇 ―その拾九―

菅野高至

前回、山口崇さんの出演で紹介した、少年ドラマ「ちりめんじゃこの詩」にまつわるお話を綴る。終戦直後の物語も、最早ある種の時代劇ということで、しばしの寄り道をお許し頂きたい。

昭和22年夏、小学5年の主人公は巡査の父（山口崇）の転勤で淡路島の中だけで、三度目の転校をする。登校初日、得意のハーマニカを演奏してクラスの仲間に認められる……。

「瀬戸内野球少年団」に列なる、原作の阿久悠さんの自伝的小説である。

企画の立ち上げが89年の晩秋だったか、90年の冬だったか、よく覚えていない。と言うのも90年6月に大阪放送局から東京の「音楽Fプロダクション・オーディオドラマ班」に異動となり、ラジオドラマの傍ら、大阪で制作中のドラマ（2シリーズ9本と単発2本）を内職(?)していたからだ。途中でバトンを渡すプロデューサーが何故か不在で、転勤直前に同期の森平人君が演出からプロデューサーに転身し、僕と森君の共同プロデュースになった。脚本は決して速くない高橋正園さんであった。

出演は、主人公の父母を山口崇、伊藤榮子と決めた以外は、すべて演出の長沖涉君と森君に託した。男の子はオーディションで選ぶが、主人公の憧れ、旅回りのレビュー団の人気者は前年、ミュージカル「アニー」（青山劇場）でヒロインを演じた、岩崎ひろみになる、野球チームを作ろうと誘い

「いつか接吻しようね」と囁く、もうひとりのマドンナは西部里菜になる。西部は芦屋雁之助の娘である。二人は76年生まれの14歳。岩崎は女優を続けているが、西部は女優を辞め、歌手Reaで活躍している、共に40歳になった。歳月である。

歌手で思い出したが、田広志と河島英五が出ている。河島の代表曲の一つに、阿久悠作詞の「時代おくれ」（作曲：森田公二、白鶴酒造のCMソング）がある。

「目立たぬように はしやがぬように」生きたい、バブル景気に浮かれるニッポンを予感したかのような、86年にヒットした名曲である。86年と言えば、8月に僕が大阪局に異動した年である。ちなみに、バブル期は86年12月から91年2月まで、4年3か月（51か月）間を指すのが通説となっている。つまり、僕の大阪時代はバブル景気と共にあったのだと、振り返って見て、今、改めて気がついた。

記憶に残るバブルの一番の実感は、東京でも大阪でも、深夜のタクシーを捕まえる難くなったことだ。高速を使わぬ近距離はこことく乗車拒否にあつて、盛り場はどこでも人が溢れていた。街のあちこちに地上げされた空地がいくつもあつた。

誰もが「目立ちたがつて、はしゃいでいた」、そう言う時代だった。

そして、バブルの崩壊を迎える。91年3月、10月を「バブルの崩壊期」と言うそうだが、当時の僕らはまだまだ実感が無く、かくも不況が続いて、「失われた20年」になるとは露ほども思っていないかった。

なお、書きそびれたが、河島は01年4

月、48歳の若さで亡くなっている。

ところで、「ちりめんじゃこの詩」では、僕は阿久さんに出会っていない。著作権の許諾は文藝春秋社の編集者を介して済ませて、完成試写会も森君の仕切で行い、阿久さんにお会いした記憶は無いのだ。

その後初めて、阿久さんにお会いしたのは、高島礼子主演の「御宿かわせみ」の主題歌を録音するスタジオだった。確か03年1月下旬、コロムビアのスタジオで、歌手は田川寿美、作曲は大島ミチル、編曲が若草恵であつた。

一通りの挨拶をした後に、阿久さんは、ドラマ「ちりめん」が面白かった、時代の雰囲気、良くと出来ていたよ、面白かったと誉めてくれた。それから、「映画の『瀬戸内（野球少年団）』はね、僕らの作品じや無いんだ、篠田（正浩）さんのもの（作品）だからね」と、不満をこぼした。演出の長沖君の手柄だが、嬉しかった。

歌謡曲は、ニューミュージックに押されるように売れなくなり、明治43年創業の老舗のコロムビアも、02年にコロムビアミュージックエンタテインメントと今風(?)に社名を変えて、苦戦が続いていた。

そんな時代に、さほど売れるとも思えないNHK金曜時代劇の主題歌を仕掛けた張本人は、日本放送出版協会（今は、NHK出版）音楽事業部のMさんだった。この頃のNHKの命題は、関連団体は「なんでもいいから稼ぐ道を見つけよ!」というのが、NHKの命題だったとしても、まあ、我々には誠に有り難い奇特な方だった。

CD制作の出資はコロムビア、（田川さん

の所属事務所）長良プロ、NEP 21が、各3分の1ずつの出資で、額はおよそ50万円程度だった。原盤権も各3分の1ずつ持つて、出版権をNHK出版が持った。印税収入は定価1200円のCD1枚に対し、三者それぞれ34円56銭だった。NEPの印税収入の幾ばくかをNHKに上納する。幾ばくは、後に半分になる。

肝心の主題歌は、物語のヒロインいと東吾の不安定な愛を見守り育むような作品に仕上がってきた。

「しあわせと背中合わせに ふしあわせ」 悲しい歌はきらいですか 歌っちゃいけませんか

あまたの名曲を綴った、作詞家・阿久悠の筆記具は「べんてるのサインペン」だ。人生を感じさせる字体で、見た瞬間、一気に清書して書いたのが分かる書きぶりです。詩そのものを一瞬にして納得させるような原稿であつた。

放送の3週間後、03年4月21日CD発売となる。カップリング（いわゆるB面）は堀内孝雄作曲の挿入歌「花になれ」うめさくら あじさい ひがなはな」である。その冒頭、「夢みて生きた はたちのように わたしは花だと いわれない」と綴った……。

昭和の天才。言葉の魔術師。阿久さんは、07年8月70歳で亡くなる。「歌は時代とのキャッチボール」、今だからこそ、阿久さんの詩を聞きたいと思う。

さてCDだが、詩も、曲も、歌も最高だったが、売れて儲かったという話は、ついぞ聞こえてこなかった……。 （つづく）

第17回 日韓中テレビ制作者 フォーラム・東京大会・概要

日韓中テレビ制作者フォーラムとは

日本、韓国、中国のテレビプロデューサー、メディア関係者（放送関係者、記者、学者、研究者）たちが国家や立場の違いを超え、一堂に会し、それぞれが制作した作品を試写し、率直な討論を行い、シンポジウム等を交えながら、各国の放送事情のみならず、放送の背後にある三国の国民の考え方等についても共通理解と認識を深め、3国の放送文化の向上に資するもの。

このフォーラムは、今世紀の幕開けの2001年、関釜フェリーの船上で、日韓の制作者たちが率直な話し合いを行ったのが最初で、3回目からは中国が参加し、以来3国間の政治状況の如何にかかわらず、3国間の持ち回りで開催され、今年は17回目、東京で開催。

日本での開催は2002年第2回大会が対馬、2005年東京、2008年福岡、2011年札幌、2014年横浜、今回の東京大会は、日本で開催の6回目。

日本で開催するフォーラムでは、一般の市民が作品鑑賞に参加し、シンポジウムを傍聴するなど、このフォーラムのもう一つの目的でもある視聴者のメディアリテラシーの向上につなげようとの努力も行っている。

フォーラムの規模は

主催国参加者が約70名
他の2国は各々40名 計150名規模

フォーラムの各国主催団体は

日本（一社）放送人の会（共催 上智大学）
韓国 韓国PD連合（全国のテレビプロデューサーの職能団体）
中国 中国電視芸術家協会（国家テレビ職務機関）

17回東京大会の特色

会場となる上智大学を最大限に活かした大会。会場は、江戸城堀の雰囲気の中に佇む教会をもつ上智大学四谷キャンパス。特色のあるメディア学科、新聞学科の留学生を含む学生さんに通訳として活躍してもらい、中国韓国に対するホスピタリティを充実させるとともに、これまで以上に多くのジャーナリスト、ディクテーション学者研究者が参加する国際性豊かな上智大学のアカデミックな校風を生かした大会とする。

主催 放送人の会 上智大学
協賛 JKA 放送文化基金 国際交流基金 民間放送等
協力 NHK マスコミュニケーション学会
会長 今野 勉（放送人の会 会長）
音 好宏（上智大学、メディアアジアナリズム研究所所長）

フォーラムの日程等

日時 2017年平成29年9月24日（日）
～27日（水）
場所（会場） 上智大学 四谷キャンパス10号館特別講堂
作品テーマ 「田舎暮らしと都市と農村の関

係

9月24日（日） 中韓参加者来日 夕刻から
開会式 歓迎晩餐会
25日（月） 終日 試写・討論
26日（火） 終日 試写・討論
シンポジウム
27日（水） 午前 閉会式

日韓中テレビ制作者フォーラム

東京大会に若い力を！

若い人の参加に向けて、会員の皆さん「協力ください！」

2001年、関釜フェリーの船上で、日韓の放送人が「歴史認識」について激論することから始まった日韓中テレビ制作者フォーラムは、今年で17回目を迎え、東京大会として、上智大学四谷キャンパスで開催されます。

「別記の大会概要」をご覧になればお分かりのように、今年のフォーラムは上智大学との共催です。都心にあつて、ジャーナリズム学科が充実、世界から留学生が集い研究するキャンパスという地の利を生かし、今回は、多数の学生研究生に通訳を依頼し、3国の参加者たちのコミュニケーションをより充実させるとともに、シンポジウムのテーマに、若い人に関心あるテーマを選ぶなど、放送局制作会社、大学の若い放送人、研究者の参加を呼びかけています。

私が今年に限らず、ここ数年、フォーラムへの若い人の参加を強調するには、いくつかの理由があります。

ひとつは、放送人は「立場を超えて交流し、啓発しあい」「市民との積極的な意見交換を行い、傍聴者・放送人の育成」と「放送文化の継承と発展充実」に資する」という放送人の会の目的は、このフォーラムの趣旨・目的そのものでもあり、放送文化を継承し今後の発展につなげるためには、フォーラムの活動に若い力が導入される必要があるという当然の理由です。

ふたつは、現実的に中国韓国、とりわけ韓国の参加者から日本の若い放送人と知り合いたい、議論したいとの要望を聞く機会が年々増えているからです。制作条件の厳しい現場でTV制作をつづける韓国の現役制作者は、日本の若い制作者から多様な刺激を受けたいのです。自潮的に日本側が言い出したこととはいえ、禿頭白髪集団は、日本参加団の代名詞となっています。3国相互が、与え与えられる関係の国際フォーラムから言えば、韓国からの要望に、ある程度叶えられるよう努力する必要があります。

三つ目の理由は、社会からの期待に答えられなければならないという理由です。

この場合、社会からの期待は、いくつかの資金助成団体からの資金援助額に表現されています。今回は2000万円規模の事業経費のうち、1/2を超える、1100万円余りの助成金を、三つの団体からいただきました。前回横浜大会を大きく超える額になったのは、これまで幾度となく助成申請書を書いてきた私の理解では、キャンパスを市民に開放しつつ、若い学生通訳を組織化し、若い人の参加を促し、放送文化の継承発展を若い人に期待するという、今回のこのフォーラムの

「若い力をキーワードに据えたキャッチコピー」が各助成団体から大きな評価を得たからです。そうした評価を裏切るわけにはいきません。

最後に、これまで放送人の会の様々な事業を実際に担当してきた立場から、踏み込みすぎを恐れず、あえて青くさい発言をします。いうまでもなく、放送人の会の活動は、会員が好きなことを勝手に行うことではなく、やることの意味や意義を感ずる者が、自ら進んで行うこと（つまり、己の労力を提供する）が基本であり、それが、会の活動が無償で行うボランティアによって成り立っている所以でもあります。

ここ数年、会の活動の本来持つべき意味、意義を感じとり、活動に主体的に参加するメンバーが少なくなってきました。というより、そうしたメンバーは固定化し、高齢化し、つまり弱体化しています。もちろんその活動の中心に魅力を感じなくなっているという実態（これは活動する人たちにも反省の余地があることはもちろんです）があるでしょう。そうした会の活動を資金的にも、実務的にも活性化したいと踏み切った社団法人化も、法人化に伴う事務作業、事務経費の肥大化によって、相対的に、個々の事業活動への目配りが行き届かない状況も生まれています。そうした中で、フォーラム事業の事務進行等の業務をイベント会社に委託せず、ボランティア活動によって、2〜300万円程度の節減を可能としているのは、実行委員が、この事業の意味と意義を感じ、社会や会員からの期待に答えなければという強い責任感を持っているからです。

日韓中フォーラムも、今年の事業の終了とともに、フォーラムの存続を含め、今後のあり方について議論を始めます。結果はわかりませんが、フォーラム活動の意味、意義がきつちりと検証されないようであれば、2度とこのようなフォーラム事業を行うのは難しくなると、大きな危機感を持っています。そうならないためには、若い人の参加を標榜する今回のフォーラムが、企画に描いたような形で実現されることが必要です。

石橋冠さんのご努力で誕生した、新しい若い会員の皆さんも含め、多くの方々が、フォーラムに参加され、その意味と意義、そして他処からの期待に応える責任感を受け取り、我々のような白髪禿頭（そうではない高齢会員には失礼ですが）の高齢理事、事業委員に代わって、新しい放送人の会の今後を牽引していただけることを切に願っている今日この頃です。

———ということと、

皆さん（特に若い会員の皆さん）には、自らがこのフォーラムに参加すると同時に、お知り合い（出身の放送局、制作会社等）の若い放送人にこのフォーラムへの参加を呼び掛けていただけないでしょうか。よろしくおねがいします。

（フォーラム実行委員 渡辺純史）

羊羽亭語

地上波はしぶとい

未だテレビの無いころでした。

放送といえばラジオだった。コタツにあたりながら志ん生（火焔太鼓）だったかに笑い転げていると、ここ一局からのお知らせありますと、アナウンサー。職員募集である。

1958年。受ける新聞社、出版社はことごとく失敗し、放送局でも受けるか。それがヒヨクなこと文化放送にパスしちゃった。就職試験前日、仏語と訳語対比のバルザックを読んでいた。L a n e i g e q u i n , a p a s c e s s e なんとズバリ、その「谷間の百合」の一部を訳せとあるではないか。もちろん100点だったろうそれが効いたのか。

まず報道部へ回され聴くから作るへ。いきなりデンスケ（携帯録音器）を背負われ、ストを録ってこい！やがて売れない録音構成は番組から消えた。局内失業者を経て文筆業へ。

「アータ、食べてゆけるのか」。

「調査情報」（TBS）が拾って呉れた。おかげであれから数十年。80歳の太台から見るとテレビもさま変わりし始めた。毎日が日曜日の超老人にニュース報道は要らぬ。アベなんとか政治報道は興味も関心もない。

正午になると専らテレビ朝日に回

し、「徹子の部屋」だ。春先からこのテレビ局はシルバータイトム戦略と称するキャンペーン編成で臨んでわれら高年齢御用達の帯ドラマ「やすらぎの郷」につなぎ、石坂浩二以下ジジババ役者総動員と続き、元NHKアナにして元県知事司会者の「ワイドスクランブル」が待っている仕組みである。

全体の仕組みは倉本聰だと聞き、まんまとハマったフリをしてみているうちに我が家の日常接触視聴ゾーンになった。

そうか、いまや報道、情報、教養、娯楽など嗜好アイテムにしばらく編成なのか。SNSと融合し、動画をチェックすれば地上波に優るコンテンツもちらほらする。メディアだつて新聞もテレビもネタモトをヒッパリだして、特集だのテーマにしている。ひと様のアイデア？知ったことか。

あのころ、つまり開局当時は現場はない知恵を絞らされた。これは音にならねえか、それじゃ「絵」にならないよ、と応酬の果てに結局は担当者一任で企画会議はお開きになり「さあ、メシだ、何にする」。

綾小路きままろじやないが、あれから四十年、いや50年、結局地上波だけはしぶとい。陽気なドロドロ番組氾濫のかけに、ひっそりと客待ちの番組がある。宝の山がある。それを楽しみに見る、それが地上波である。90歳まわかになつてやつとテレビがわかりました。

(M)

放送人の会2017年度運営体制

総会の記事に会長、理事などの名前を掲載しましたが、委員会などの運営体制は左記の通りです。

■委員会 □特別委員会 ☆プロジェクト
★独立プロジェクト ○チーフ

■事業委員会 委員長 渡辺紘史

☆放送人の証言 ○隈部紀生、工藤英博、桜井均、加藤滋紀、北村充史、近藤邦勝、石橋映理、

★証言出版プロジェクト ○今野勉 隈部紀生

☆名作の舞台裏☆☆人気番組メモリー(合同)

○渡辺紘史、石橋冠、加賀美幸子、佐々木彰、八木康夫、逸見京子、石橋映理

☆放送人の世界 ○今野勉、前川英樹

☆ドキュメンタリーワールド ○桜井均、小池勝次郎、鈴木典之

☆会員交流・放送人句会 ○西川章、伊藤雅浩

☆地域交流 ○村上雅通、曾根英一、林健嗣、

■広報委員会 委員長 伊藤雅浩

☆会報 ○伊藤雅浩、鈴木典之、松尾羊一、菅野高至、逸見京子

☆ウェブサイト ○伊藤雅浩、菅野高至

■総務委員会 委員長 前川英樹 吉田賢策 深尾隆一

・事務局長代行 前川英樹 事務局スタッフ 須齊・月水金 逸見・水金

・事務局当番 月・菅野 水・前川 金・吉田

○大山勝美資金運用委員会(大山委員会)(会長・副会長・総務委員長・「日韓中」チ

ーフ、グランプリ)チーフ、大山勝美賞チーフ 委員長 今野勉、堀川とんこう、

石橋冠、西村与志木、渡辺紘史、前川英樹

□「理事選挙委員会(会長・副会長・総務事業、広報各委員長 委員長 今野勉、堀川とんこう、前川英樹、伊藤雅浩、渡辺紘史

★放送人グランプリ ○西村与志木、吉田賢策、逸見京子 ▼「大山勝美賞」選挙委員会 ○石橋冠、八木康夫、逸見京子

★日韓中制作者フォーラム 大会会長・今野勉十組織委員会

★ラジオプロジェクト ○田中秋夫、永田俊和、三原治、松尾羊一

来信

故大類啓さんのご遺族へ会報を送ったところ左記のお手紙が届きました。編集部やラ・フランスを食べた人など、大類さんに縁のあった人が故人をしみじみ偲びました。

★ (略) 先日は「放送人の会」会報をお送りいただき、ありがとうございます。

一時期でしたが、父の生前、原稿を手伝っていたことがあり、その頃のことを懐かしくてなりません。

2014年1月24日号の会報で父が書いた「コントローラ・コントロール」というタイトルの原稿で、最後の文章に「30年前に聞いた「コントロール」が裏道でウロウロし出し、表通りに出たがついているような構図がうすら見える」という一文があります。

「さすがだなあ」と当時感心したのを今でもよく覚えています。まさかこれが、父の

書いた最後の原稿になるとは思いもしませんでした。

「ジャーナリスト」という言葉を嫌い、自分のことを「モノ書きの端くれ」と言っていた父にとつて、放送人の会の会員であることはモノ書きとしての誇りであったようです。

2005年5月23日号(No.23)から2015年1月30日号(No.68)までの会報はきれいに整理され、ファイルに綴じこまれています。2012年1月に肝細胞癌で倒れてからは、その治療で入院を繰り返すことになり、父は肌身離さずこのファイルを持ち歩いておりました。

「放送人の会」のつながりが父の人生の中にどれほど大きくしめていたのか、付箋傍線だらけの会報を1ページ1ページめくるだけでわかるような気がします。

そんなうちも亡くなって3月17日で三回忌を迎えます。

今でも忘れられません。「死にたくない」。父が息を引き取る直前に残した言葉です。亡くなるその瞬間まで、肝臓から骨、肺へと転移した癌の痛みと闘っていました。本人にとつても家族にとつてもとても耐えがたいものでしたが、激しい生き方しか知らない父らしい最期だったかもしれません。(略) 医師

から打診がありましたが私たち家族は緩和ケアという選択を考えたことはありません。最期まで「死」を拒否していた父にはこの選択はかえって酷ではないかと思つたからです。父が亡くなって2年が経ちますがこのことだけは今でも後悔しておりません。

以前、伊藤編集長から、ラ・フランスやサクラランボの絵を描いた色紙やハガキをお送

りいただきましたが、今でも額に入れて飾っております。

山県昭彦先生、松尾羊一先生、藤久ミネ先生…。祭壇の父の遺影は今でも「放送人の会」会員、関係者の方々に送っていただいた手紙やハガキに囲まれています。生死を越えた人と人との深いつながりのようなものを感じてなりません。

(略) 生前、そして亡くなった今もお父とのつながりを大切にして下さること、心より感謝申し上げますとともに、皆様のこれからの活躍を心より祈ります。

平成29年3月7日

故 大類 啓 長女 大類なぎさ
母からもよろしくとのことでした。

編集後記

▼グランプリこぼれ話をひとつ▼グランプリ選挙会で時代劇論議になると決まって挙がる名は能村庸一さん。その能村さんの訃報が今回の授賞式の翌日(5・21)に報じられました。死去は1週間前の13日。享年76。今回は氏をグランプリに推した会員もあつたのです▼能村さんはフジでアナウンサーを長く勤めたあと、平成に入ると時代劇の企画制作に転じ、「鬼平犯科帳」「八丁堀」シリーズ、「剣客商売」「御家人斬九郎」など、目下BSチャンネルの再放送で大ウケ中の名作群を次々に生み出し、本格時代劇作りの第一人者と崇められ、頼られてきました▼平成11年出版の「実録テレビ時代劇史」は画期的な名著で、氏の執筆動機が「御家人斬九郎」

のギョラクシー賞授賞(平成7年)式での興奮にあつたようで、(当時、月評会)でこの作品を強く推し、パーティーの席でヒロインの葛吉姐さんと感激の対面ができた。筆者にも忘れ難い思い出になっています▼今号の「名作の舞台裏・陽炎の辻」の座談会採録(P14~17)は、『新世代のテレビ時代劇 論』として秀逸、血脈は受け継がれています、能村さんについて眠されよ。(典)

▼会員の話題を2つ。会報発行の都合でやや旧聞になりますが、紹介します▼今季から特別顧問役となった松尾羊一翁の新聞名物コラム『てれび指南帳』(毎日・木曜夕刊)が、通算26年間の長寿記録を立て、3月で終了。長屋の住人たちの戯作風井戸端会議が、余人の追隨を許さぬ豊饒なテレビ文化論として珍重されました。高齢ゆえの連載固辞が、新聞側の懇請もだし難く、4月から月1(木曜)の『めでいい亭』で再登場、一段高みに立つ視野からの発言の妙に注目したい▼今野勉会長の文人評伝新著『宮沢賢治の真実』(新潮社刊・本体2千円)が、数ある賢治評論本が見落としてきた新事実解明で注目され、出版直後に再販決定。代表的詩作「春と修羅」「永訣の朝」の裏の秘話の衝撃的発掘だけに、著者の気迫と明かされていく真実のスリル感に圧倒され、ワシ掴みされて一気に読了させられる。主題が賢治と妹としてのそれぞれの恋というのも興味を引く▼定評ある事実踏査の徹底ぶりに舌を巻き、洞察の深さイメージの豊かさに感嘆、これぞ読書の醍醐味に違いない。賢治の難解な詩の世界を理解する極め手として、意欲と体力に自信のある方は是非、「二読を」。(典)

▼今回、初めて「名作の舞台裏・陽炎の辻」の企画・実施を担当させて頂きました。今号に掲載している「名作の舞台裏」の2作品は、奇しくも、今、テレビドラマから消え去ろうとしている「ホームドラマ」と「時代劇」を取り上げています。大家族の中で育った私には、祖母と見ていた「ホームドラマ」、時代劇「はテレビドラマに欠かせないものです。殊に『時代劇』に関しては、私自身が『水戸黄門』の製作に関わっていたことや時代小説が好きなきともあり、何としても無くしてはいけない日本のエンターテインメントにおける文化だ」と思っております。諸先輩方のお力をお借りしつつ、時代劇の企画を考え続けたいと、今回の「陽炎の辻」のトークを聞き、改めて思いました。最後になりましたが、今回の実施に向けて力足らずの私にご助成下さりました事業委員長の渡辺さんに心よりお礼を申し上げます。(逸見京子)

▼久しぶりの会報発行で編集の時間がたっぷりあったので「名作の舞台裏」の2本をほとんど全部採録し、長いものになつてしまいました。「3匹のおっさん」は現代の下町のドラマですが、殺陣があり、決め台詞があり、気分は時代劇です。「陽炎の辻」とあわせて2本の新しい時代劇論として読めると思います▼5月に入つて自宅のパソコンが壊れ、FAXが壊れ、迷惑をかけました。パソコンはマイクロソフトの有料サポートを受けて回復しましたが、FAXは寿命で新しいものを買いました。まだ不具合が生じるかもしれないが、よろしくおつきあいください。(祝郎)

会員名簿

2017.5.31現在

【あ】藍澤幸久 相田洋 相本芳彦 青木裕子 秋田和典 秋山豊寛 天野證範 雨宮望 新井和子 【い】池田正之 石井彰 石井ふく子 石橋映里 石橋健司 石橋冠 石原信和 磯智明 磯野恭子 板谷駿一 市岡康子 市川哲夫 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 岩瀬 弥永子 【う】上田洋一 上村忠 浮田周男 碓井広義 臼杵敬子 内山洋道 宇野昭 【え】江川雄一 江口展之 榎本恒幸 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大池雅光 大川光行 大蔵雄之助 大多亮 太田昌宏 大原れいこ 緒方陽一 岡野真紀子 岡本勉 小川治 小河原正巳 沖野稔 荻野慶人 尾田晶子 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 柏木登 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤拓 加藤義人 金澤宏次 金沢敏子 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 鎌内啓子 亀谷弘美 鴨下信一 川喜田尚 川口健一 河邑厚徳 【き】北川泰三 北川信 北川祐美香 北出晃 北村美憲 北村充史 木村成忠 【く】工藤英博 久保志穂 隈部紀生 倉内均 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳 【こ】小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 後藤和晃 小林和男 小山帥人 近藤一男 近藤邦勝 今野勉 【さ】斎藤秀夫 斎明寺以玖子 寒河江正 坂元良江 桜井均 桜井元 佐々木彰 佐々木欽三 佐々木光政 笹山正勝 佐藤敦 佐藤幹夫 佐藤理恵子 佐野有利 澤田隆治 【し】重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 志津木敬 四宮康雅 柴田陽一郎 嶋田親一 清水誠 志村一隆 下崎寛 下重暁子 白井博 【す】菅野高至 菅野嘉則 杉田成道 鈴木昭典 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木弘貴 鈴木嘉一 須磨章 【せ】清野豊 関佳史 せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 高田宏 鷹森泉 塚中一夫 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原茂行 【ち】崔銀姫 千葉邦彦 【つ】塚原あゆ子 塚本茂 塚本幹夫 辻本昌平 土屋敏男 つボイノリオ 露木茂 鶴橋康夫 【て】寺島高幸 【と】東城祐司 堂本暁子 戸田桂太 外崎宏司 豊原隆太郎 【な】長井展光 中尾幸男 中込卓也 中崎清栄 中島僚 中島由貴 中田美知子 永田浩三 永田俊和 長沼士朗 永野敏一 中町綾子 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村美美子 中山和記 並木章 【に】新村もとを 西憲彦 西村与志木 西川章 仁田豊文 仁藤雅夫 二宮文彦 丹羽美之 【ぬ】沼田通嗣 【の】信井文夫 延江浩 【は】萩原豊 橋本潔 林健嗣 林安二 原由美子 原田令嗣 【ひ】玄武岩 【ふ】深尾隆一 藤井チズ子 藤井正博 藤田知久 藤久ミネ 藤村忠寿 【へ】逸見京子 【ほ】堀川とんこう 【ま】前川英樹 牧之瀬恵子 増山麗央 松尾羊一 松平定知 松前洋一 黛りんたろう 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 南譲 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川鑑一 三宅恭次 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】本木敦子 諸橋毅一 門奈昌彦 【や】八木康夫 矢口久雄 矢島良彰 数内広之 山鹿達也 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】横山英治 吉澤保 吉田賢策 吉村豪介 吉村直樹 【わ】若松央樹 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺紘史

【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟